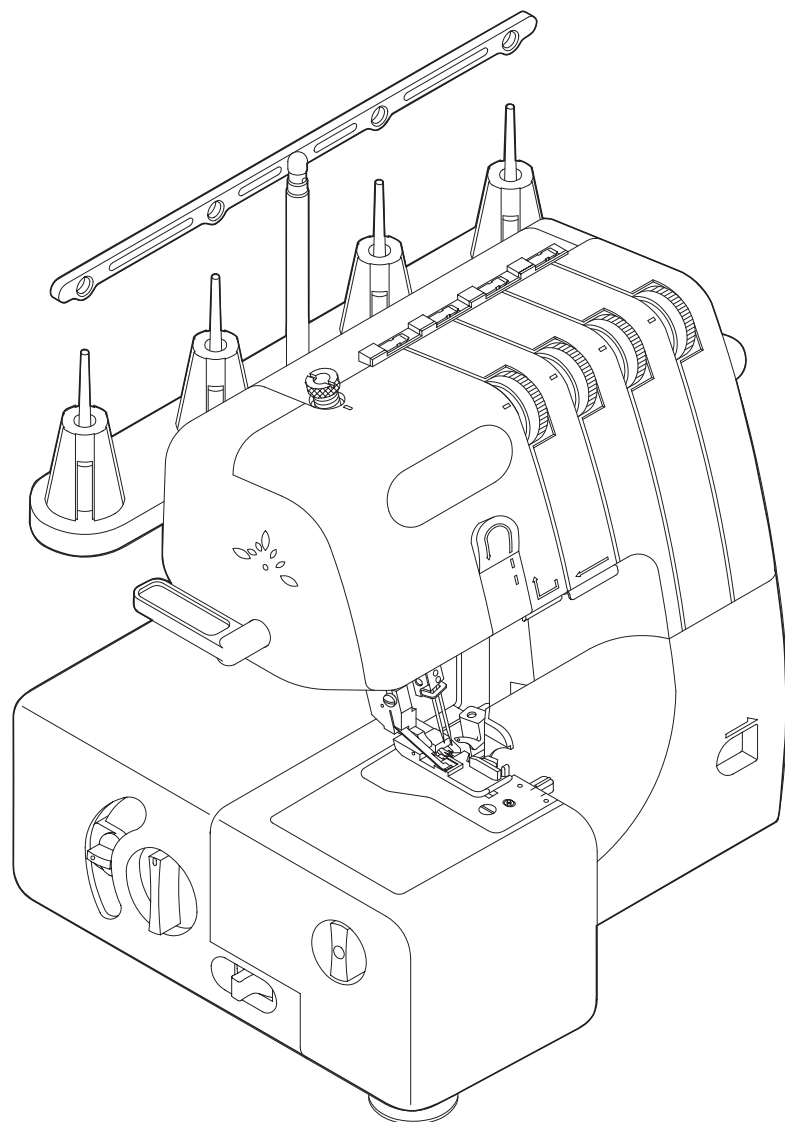


SINGER®

MODEL S-900DF

ご使用のてびき



4THREAD
OVERLOCK MACHINE
DIFFERENTIAL FEED

Professional II

この度はお買い上げいただき、ありがとうございます。
ございます。

- このミシンを安全にお使いいただくため、
この「ご使用のてびき」を使用前に必ず
お読みください。
- 「ご使用のてびき」は、保証書と共に
大切に保管してください。

このたびは、シンガーミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このミシンは、地ぬいをしながら丈夫できれいな縁かがりぬいができ、ローン、トリコットなどの薄物から、木綿、ジャージー、デニムなどの厚物まで、あらゆる布地にすぐれた機能を発揮いたします。

また、差動送り付きですので、伸縮性のある布地もきれいに仕上げることができます。

このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「ご使用のてびき」をよくお読みください。

「ご使用のてびき」は、保証書と共に大切に保管してください。

安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.



警告

感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源プラグを引き抜いてください。
 - ・ミシンのそばを離れるとき。
 - ・ミシンを使用したあと。
 - ・ミシン使用中に停電したとき。



注意

感電、火災、けがなどの原因となります。

1. フットコントローラーの上に物をのせないでください。
2. お客さま自身での分解、改造はしないでください。
3. ミシンの操作中は、フロントカバー(ルーパーカバー)は、必ず閉じてください。
4. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、ルーパー、メス、はずみ車などすべての動いている部分に手を近づけないでください。
5. 曲がった針はご使用にならないでください。
6. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
7. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。
8. 以下のことをするときは、電源プラグを引き抜いてください。
 - ・針、針板、押え、アタッチメント、メスを交換するとき。
 - ・ランプを交換するとき。
 - ・「ご使用のてびき」に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
 - ・原則として針糸、ルーパー糸を交換するとき。
9. ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡の上、点検、修理、調整をお受けください。
 - ・正常に作動しないとき。
 - ・落下などにより破損したとき。
 - ・水に濡れたとき。
 - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - ・異常な臭い、音がするとき。
10. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。

シンガーは、皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザインまたは、付属品を変更することがあります。

目 次

1. ご使用になる前に

各部の名称	2
付属品	3
ぬい始める前に行うこと	
コントローラーのセット	4
電源スイッチ	4
フロントカバー (ルーパーカバー)	4
フットコントローラー	4
アンテナを立てましょう	5
糸コマキャップ	5
押え上げレバー	6
押えの取りかえ方	6
針の取りかえ方	7

2. さあぬってみましょう

糸をかけましょう	
上ルーパー糸のかけ方 (緑)	8
下ルーパー糸のかけ方 (青)	9
下ルーパー糸かけ糸案内の使い方	10
右針の糸のかけ方 (赤)	11
左針の糸のかけ方 (黄)	12
試しぬい	13
いろいろなぬい方とミシンのセット	14
普通ロックの糸調子の取り方	15
かがり幅調節ダイヤル	16
送り目調整ダイヤル	16
押え圧調節ネジ	16

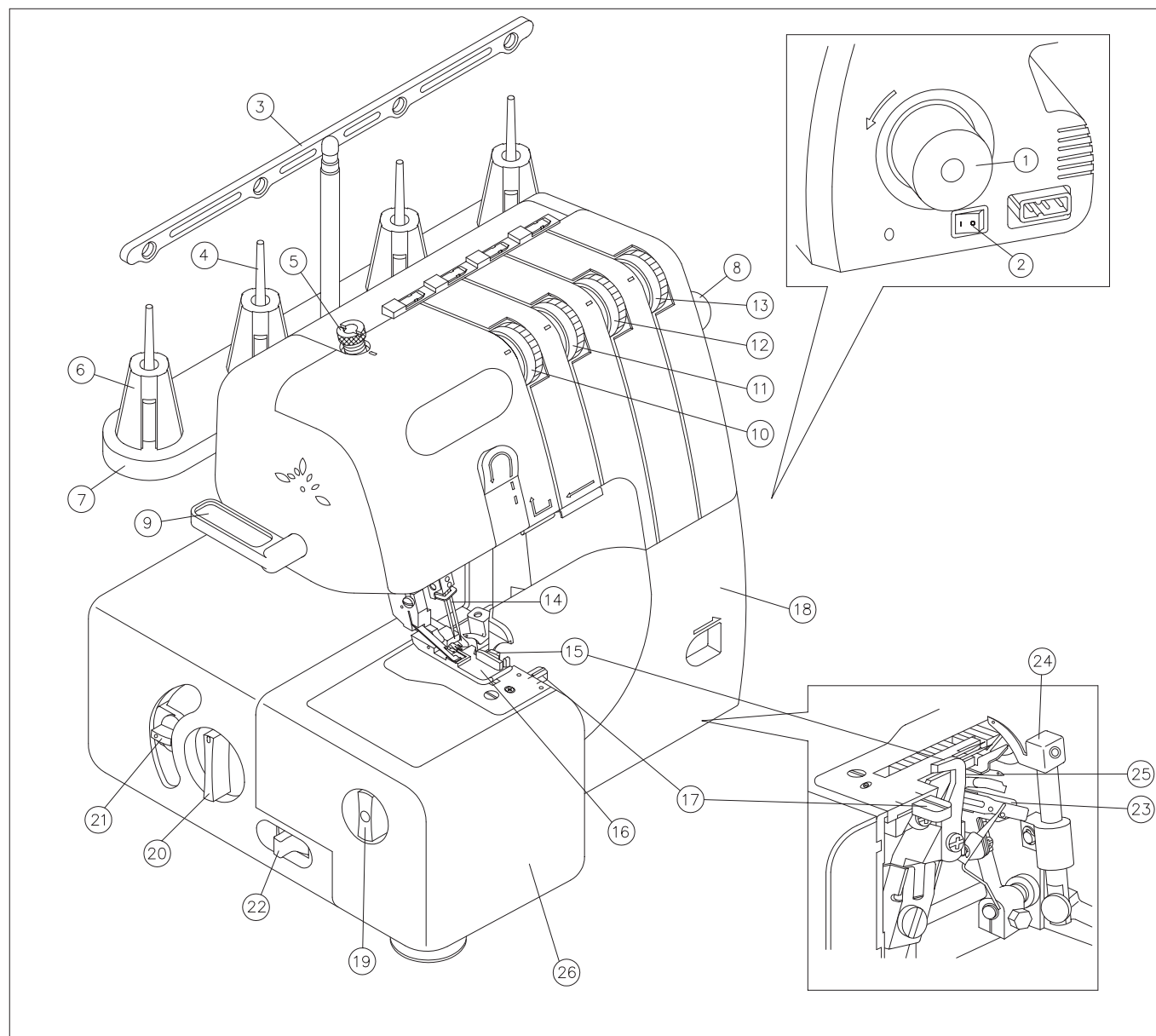
差動送り	
差動送り調節レバー	17
ぬい伸びやすい生地の場合	17
ぬい縮みしやすい生地の場合	17
巻きロック切替レバー	18
3本糸で縁かがりぬいをする	18
上メス解放レバー	18
フリーアーム	19
糸ゆるめボタンを使う	19
巻きロックでのぬい方	20
巻きロックの糸調子	20
基本的なテクニック	
外角のぬい方	21
ぬい目のほどき方	21

3. ミシンの手入れ

電球の取りかえ方	22
メスの取りかえ方	23
掃 除	24
注 油	24
故障かな?と思ったら.....	25~26
ミシンの仕様	27
修理サービス要領	28
お問い合わせまたはご相談先	28

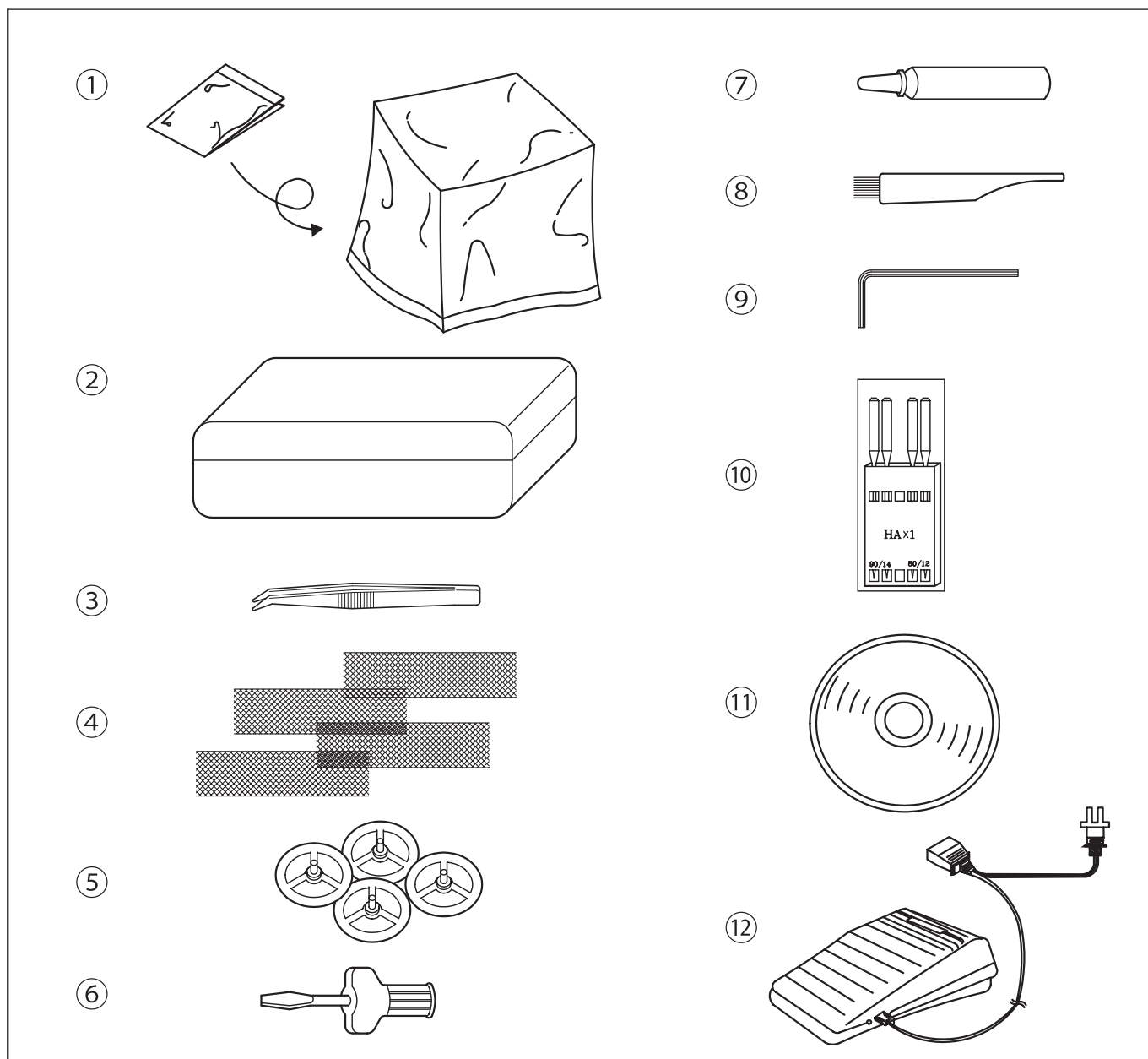
1. ご使用になる前に……

■ 各部の名称



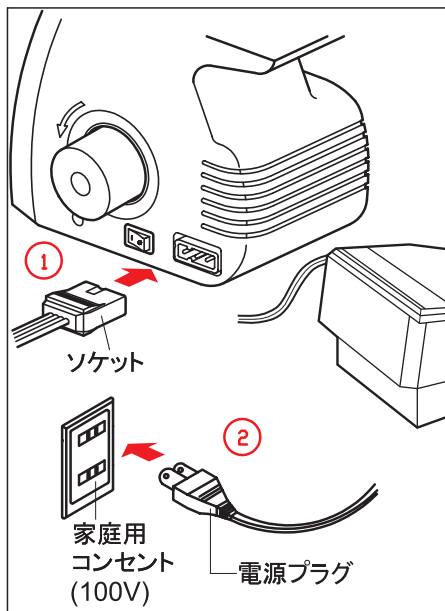
1. はずみ車
2. 電源スイッチ(ライトスイッチ兼用)
3. アンテナ
4. 糸立て棒
5. 押え圧調節ネジ
6. 糸コマ振れ止め
7. 糸立て台
8. 糸ゆるめボタン
9. 押え上げレバー
10. 左針糸調子ダイヤル (黄)
11. 右針糸調子ダイヤル (赤)
12. 上ルーパー糸調子ダイヤル (緑)
13. 下ルーパー糸調子ダイヤル (青)
14. 針(右 / 左)
15. 上メス(可動メス)
16. 押え
17. 巻きロック切替レバー
18. フロントカバー(ルーパーカバー)
19. かがり幅調節ダイヤル
20. 送り目調整ダイヤル
21. 差動送り調節レバー
22. 上メス解放レバー
23. 下ルーパー糸かけ糸案内
24. 上ルーパー
25. 下ルーパー
26. 補助テーブル

■ 付属品



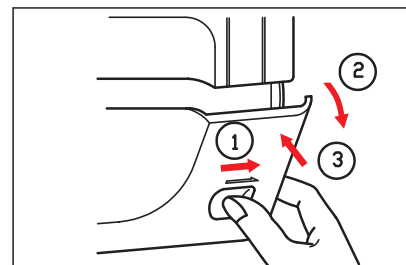
- ① ミシンカバー
- ② 付属品ボックス
- ③ ピンセット
- ④ 糸コマネット x4個
- ⑤ 糸コマキャップ x4個
- ⑥ ドライバー
- ⑦ ミシン油
- ⑧ ブラシ
- ⑨ 六角レンチ
- ⑩ 針セット(HAx1 4本)
- ⑪ 使い方DVD
- ⑫ フットコントローラー(電源コード兼用)

■ めい始める前に行うこと



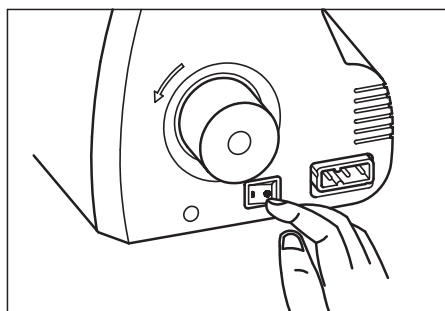
コントローラーのセット

- * コントローラーのソケットを①ミシン本体に差し込みます。
- ②プラグを家庭用コンセントにつなぎます。
- * ミシンを使わない時は、必ずプラグを家庭用コンセントから外してください。



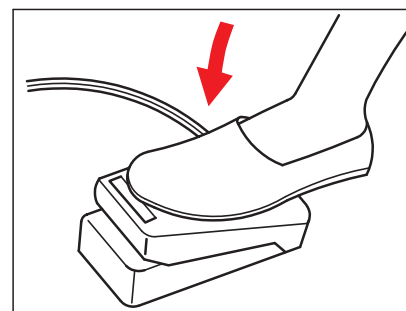
フロントカバー(ルーパーカバー)

- * フロントカバーを開けるときは、図の様にカバーを①右にスライドして、②手前に開けてください。
- * 閉じるときは③の方向に閉じればバネの力で左側に戻ります。
- うまく閉じない時は、軽く①の方向にひきながら③の方向に引き上げ、手をはなしてください。
- * フロントカバーがしっかり閉じていないと安全装置が働き、ミシンが動きません。
- ぬう前に、確実にカバーが閉じているかどうか確認してください。



電源スイッチ(ライトスイッチ兼用)

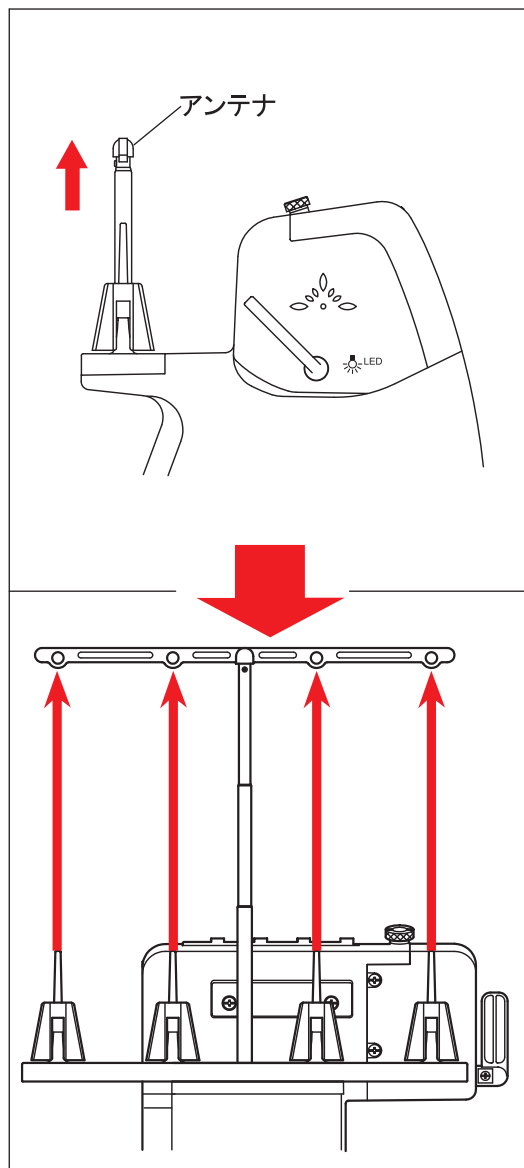
- * スイッチを「I」の方に押すと、電源が入り、ランプが点灯して使用可能な状態になります。
- * スイッチを「O」の方に押すと、電源が切れ、ランプが消灯します。
- * ミシンを使わない時は、スイッチを切るだけでなく、必ず電源プラグを外してください。



フットコントローラー

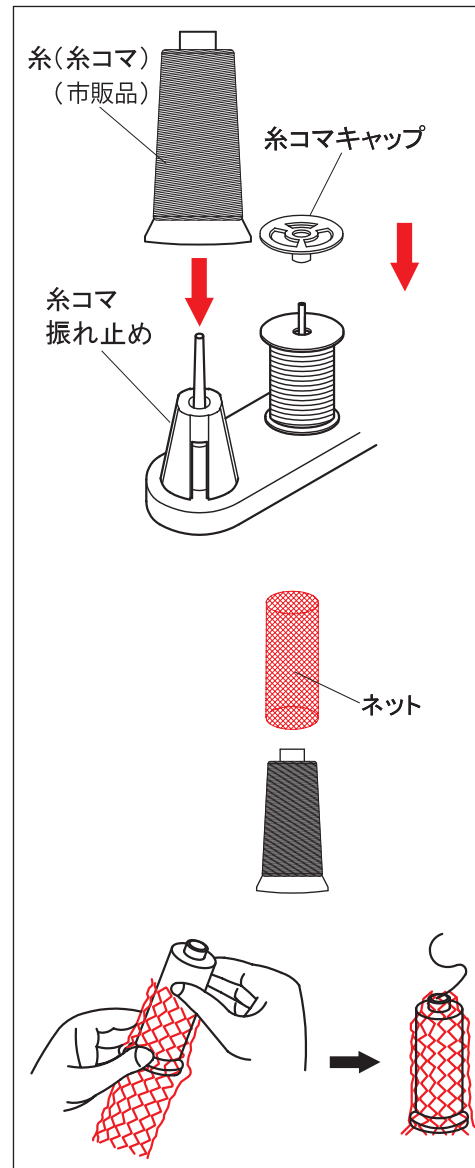
- * フットコントローラーを踏み込んでゆくとミシンが動き出します。
- * 踏み込むほどミシンのぬい速度が増します。
- 足をはなすとミシンが止まります。

■ アンテナを立てましょう



* アンテナを一番上まで引き上げます。

* アンテナの糸穴が、それぞれの糸立て棒の真上にくるようにセットします。



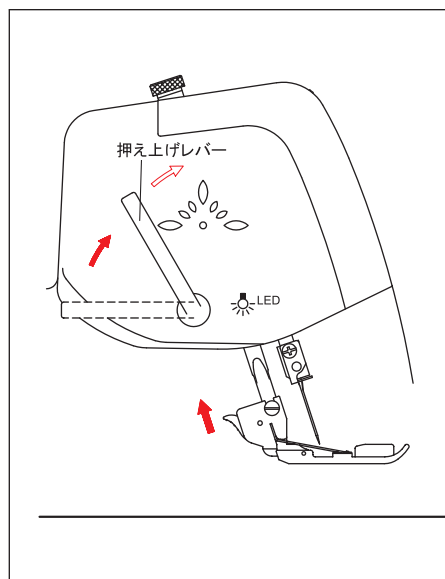
糸コマキャップ

* ロックミシン用の糸コマを使用するときは、あらかじめセットされている糸コマ振れ止めを用いて糸コマを固定します。

* 小さな糸コマを使用するときは、糸コマ振れ止めを取り外し、糸コマを糸立て棒に差し込んで糸コマキャップで固定します。

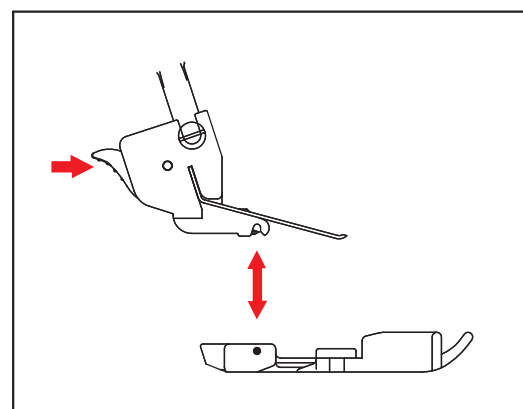
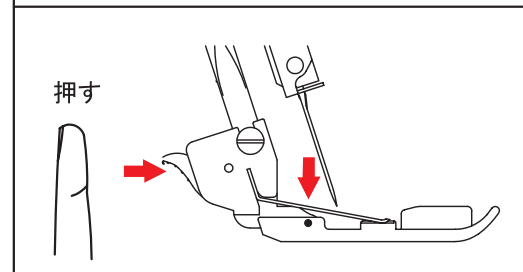
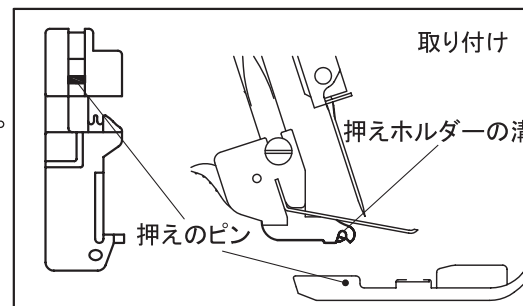
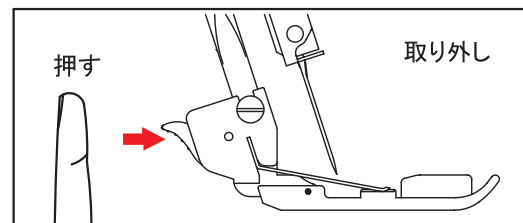
* 化繊系などの滑りやすい糸は、付属品のネットを使用してください。

■ 押え上げレバー



- * 押え上げレバーを上げると、押えが上がります。
- * ぬう時は、必ずレバーを下げて、押えを下げてください。
- * 押え上げレバーを矢印の方向にさらに押すと、押えもさらに上がります。
- ※この時は、レバーも押えも固定されません。

■ 押えの取りかえ方



【取り外し】

1. 押えを上げます。
2. はずみ車を回し、針を一番上に上げます。
3. 押えホルダーの後ろのボタンを矢印の方向に押すと押えが外れます。

※ 押え上げレバーをさらに上げると、押えが取り出しやすくなります。

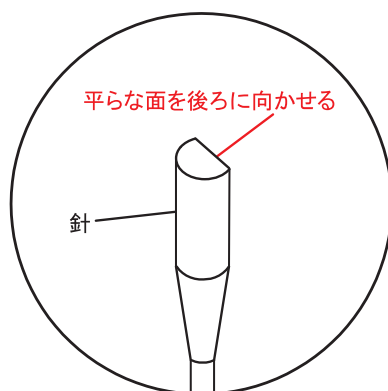
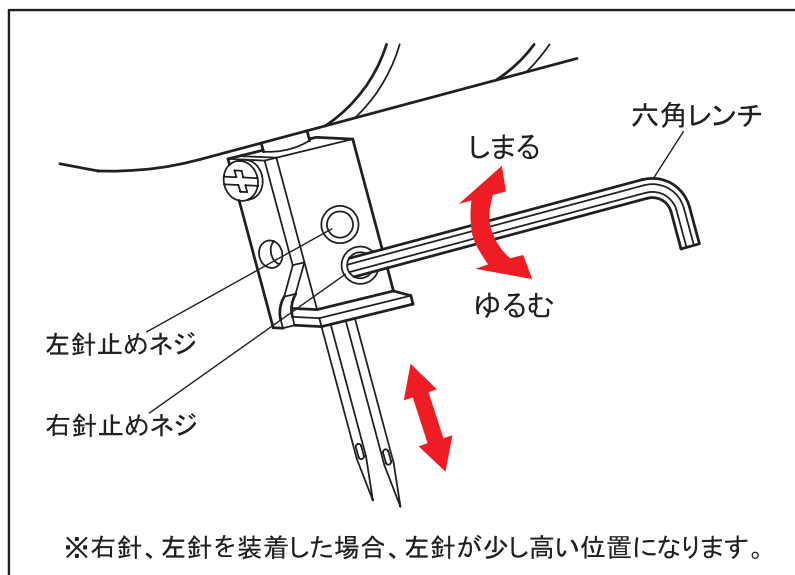
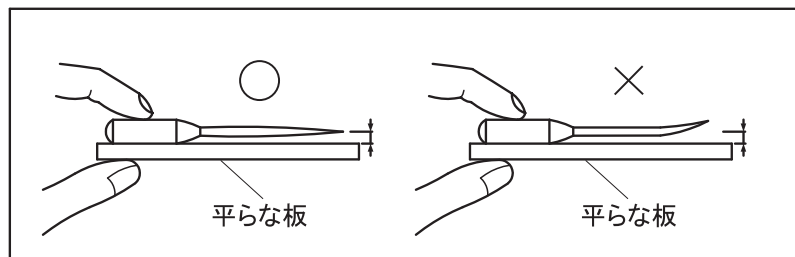
【取り付け】

1. 押えを上げます。
2. 押えにあるピンと、押えホルダーの溝がちょうど合う場所に押えを置きます。

※ 針板の針穴と、押えの針穴が合うか場所を確かめます。

3. 押え上げレバーを下し、押えホルダーの後ろのボタンを矢印の方向に押すと押えがセットされます。

■ 針の取りかえ方



このマシンには、あらかじめHAx1の針が取り付けられています。

針が曲がっていたり、針先がつぶれている状態で使用すると、途中で折れてしまうことがあり非常に危険です。

目視で確認してもわからない場合がありますので、取り外して、針の平らな面を平らな板に合わせ、針と板のすき間が平行かどうかを確認します。

すき間が平行でない場合は、針が曲がっています。その針は使用しないでください。ぬい目がおかしくなったり、ぬう時に今までとは違う異音が出た場合にも、ただちに新しい針に取りかえてください。

【針の外し方】

- 電源を切ってください。
- 手前の方向にはずみ車を回して、針を一番上まで上げてください。
- 押えの下に厚い布を置いてください。ネジを回した時に、針が落ちないように、はずみ車を手前に回して、布に針を刺してください。
- 押え上げレバーを下げて、押えを下ろしてください。
- 六角レンチを使って、止めネジを緩めます。※ネジは緩めるだけで取らない様にします。
- 指で針をつかみながらはずみ車を回します。

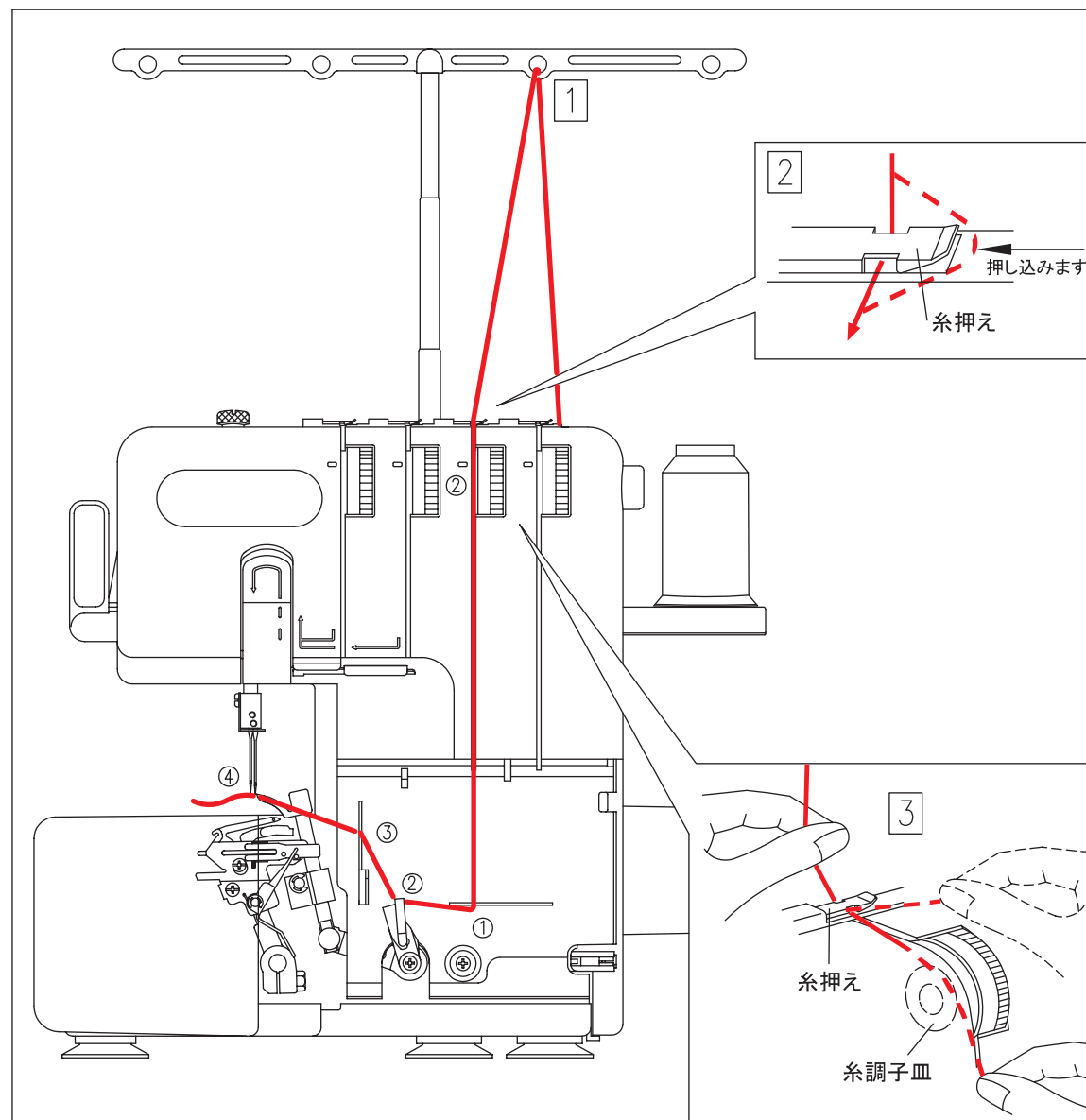
針が自然に布に残るので、その針を取ってください。※ネジは取ってしまわない様にしてください。使わない針を取り外した後は、止めネジをしっかり固定しておいてください。

【針の取り付け】

- 電源を切ってください。
- 手前の方向にはずみ車を回して、針を一番上まで上げてください。
- 取り付けたい針の針止めネジを六角レンチを使って緩めます。※ネジは緩めるだけで取らない様にします。
- 新しい針の平らな面を後ろ側に向けて、針棒の一番奥に当たるまで差し込みます。
- 針を指で持ったまま、六角レンチでネジを回して止めます。

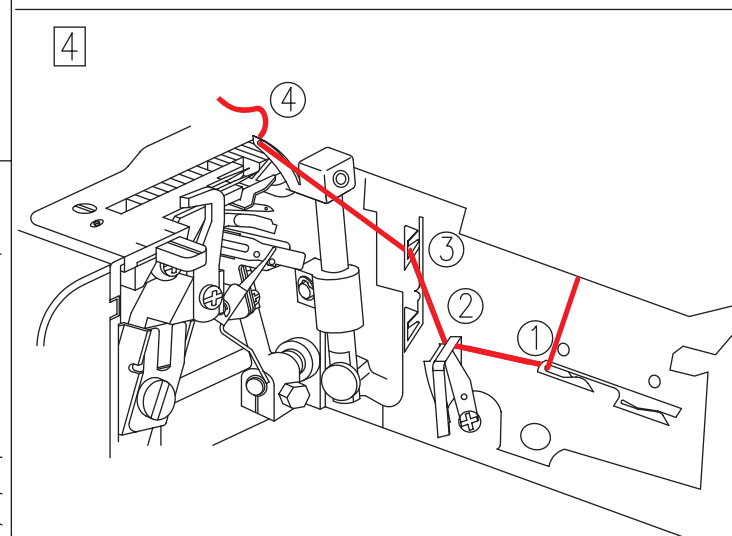
2. さあぬってみましょう

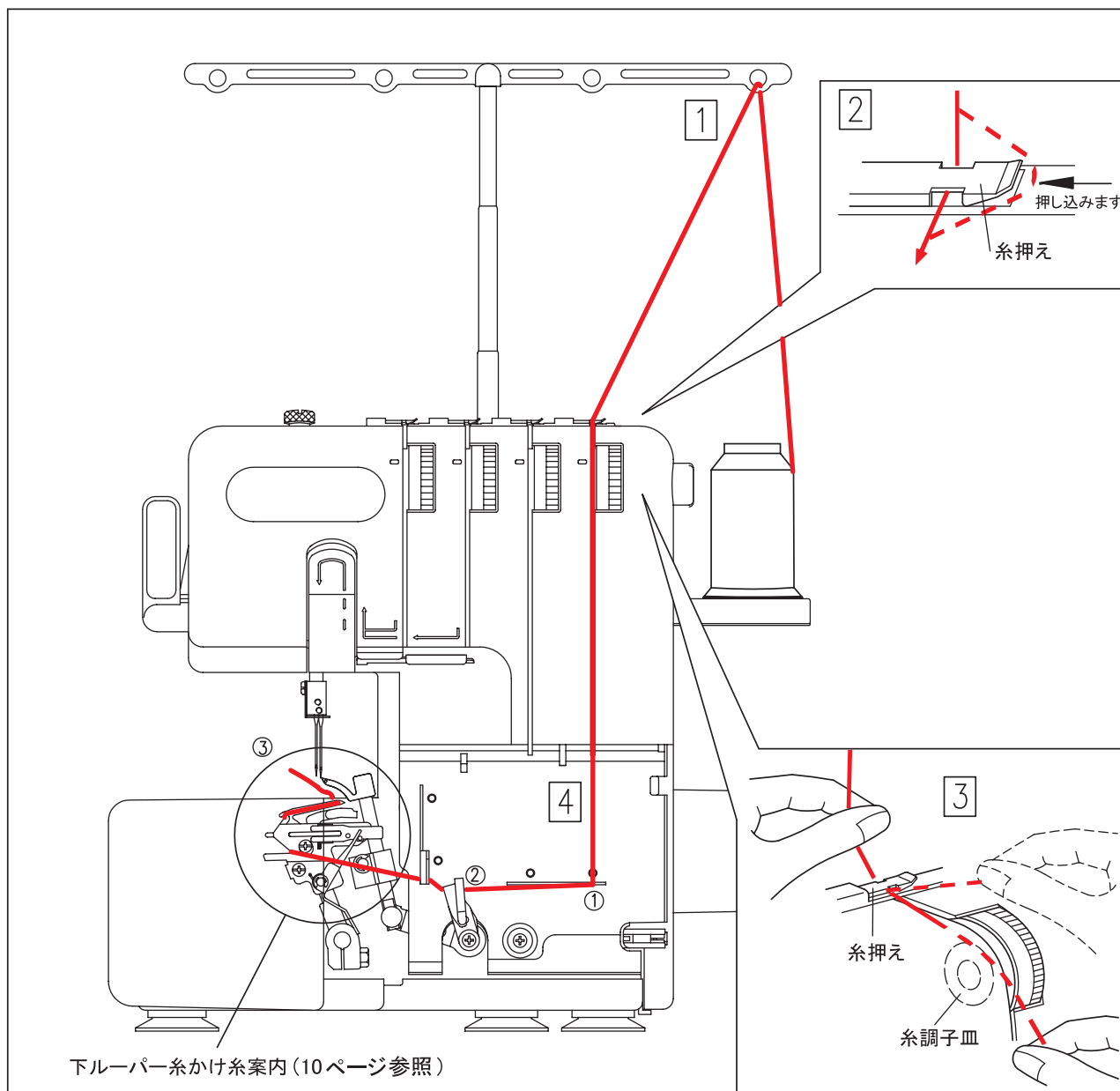
■ 糸をかけましょう



上ルーパー糸のかけ方（緑）

1. 電源を切り、はずみ車を回して、針を一番上まで上げます。
2. フロントカバー（ルーパーカバー）を開けます。
3. 右から2つめの糸コマから糸を引き出して、糸コマの真上のアンテナの糸穴に糸を後ろから前に通します。(図①)
4. 右から2つめの糸押えに糸をかけます。(図②)
5. 糸の上下を手で持ち、緑色の糸調子ダイヤルの糸溝（糸調子皿）に、しっかり押し込むように通します。(図③)
※糸調子皿は外からは見えません。
6. 緑色の印のある①、②、③に順に糸をかけ、④の上ルーパーの穴に、付属のピンセットを使用して前から後ろに糸を通します。





下ルーパー糸のかけ方（青）

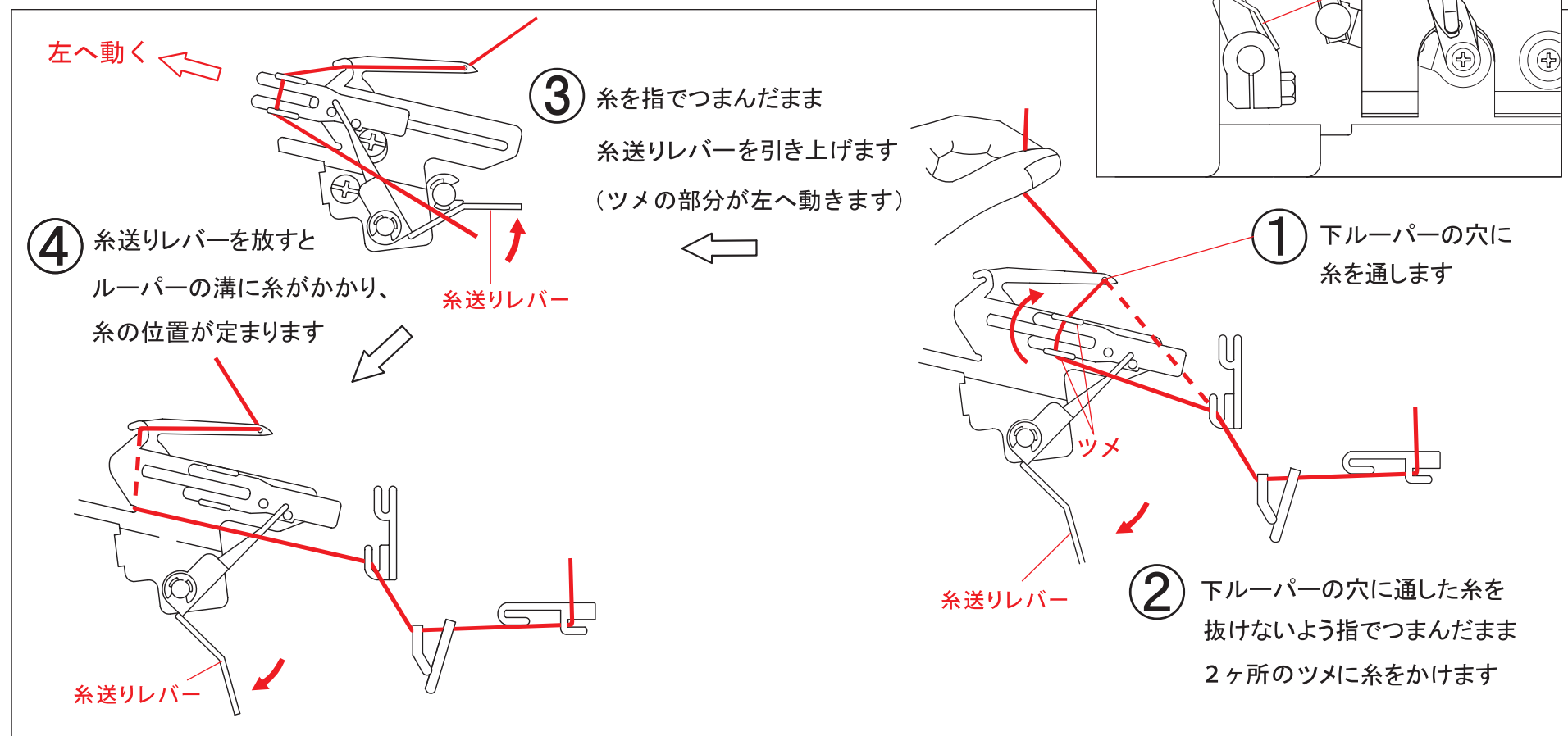
1. 電源を切り、はずみ車を回して、針を一番上に上げます。
2. 右端の糸コマから糸を引き出して、糸コマの真上のアンテナの糸穴に糸を後ろから前に通します。(図①)
3. 右端の糸押えに糸をかけます。(図②)
4. 糸の上下を手で持ち、青の糸調子ダイヤルの糸溝(糸調子皿)に、しっかり押し込むように通します。(図③) ※糸調子皿は外からは見えません。
5. 青い印のある①、②に順番に糸をかけ、③の下ルーパーの穴に、下ルーパー糸かけ糸案内を使用して、糸を通します。(図④)

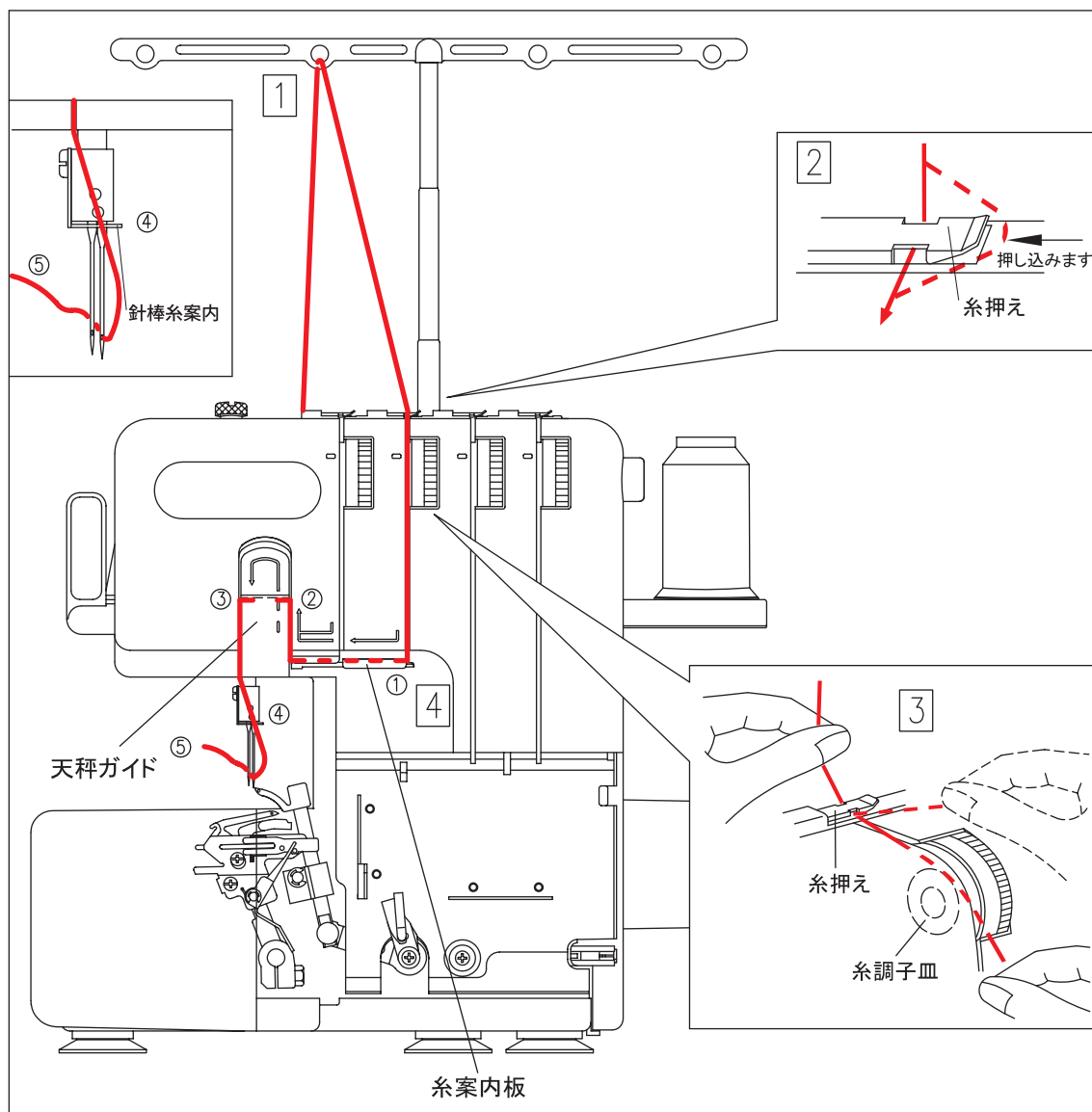
※下ルーパー糸かけ糸案内にはピンセットを使用して糸をかけてください。

下ルーパー糸かけ糸案内の使い方は10ページを ご参照ください。

下ルーパー糸かけ糸案内の使い方

1. 下ルーパーの穴に通します。(付属のピンセットを使用すると便利です)
2. ルーパーの穴に通した糸を抜けない様に指でつまんだまま、2ヶ所のツメに糸をかけます。
3. 下ルーパーの穴から糸が抜けない様に、指で糸をつまんだまま、糸送りレバーを引き上げます。
(ツメの部分が左へ動きます)
4. 糸送りレバーをはなすと、自動的に下ルーパーの溝に糸がかかり、糸の位置が定まります。

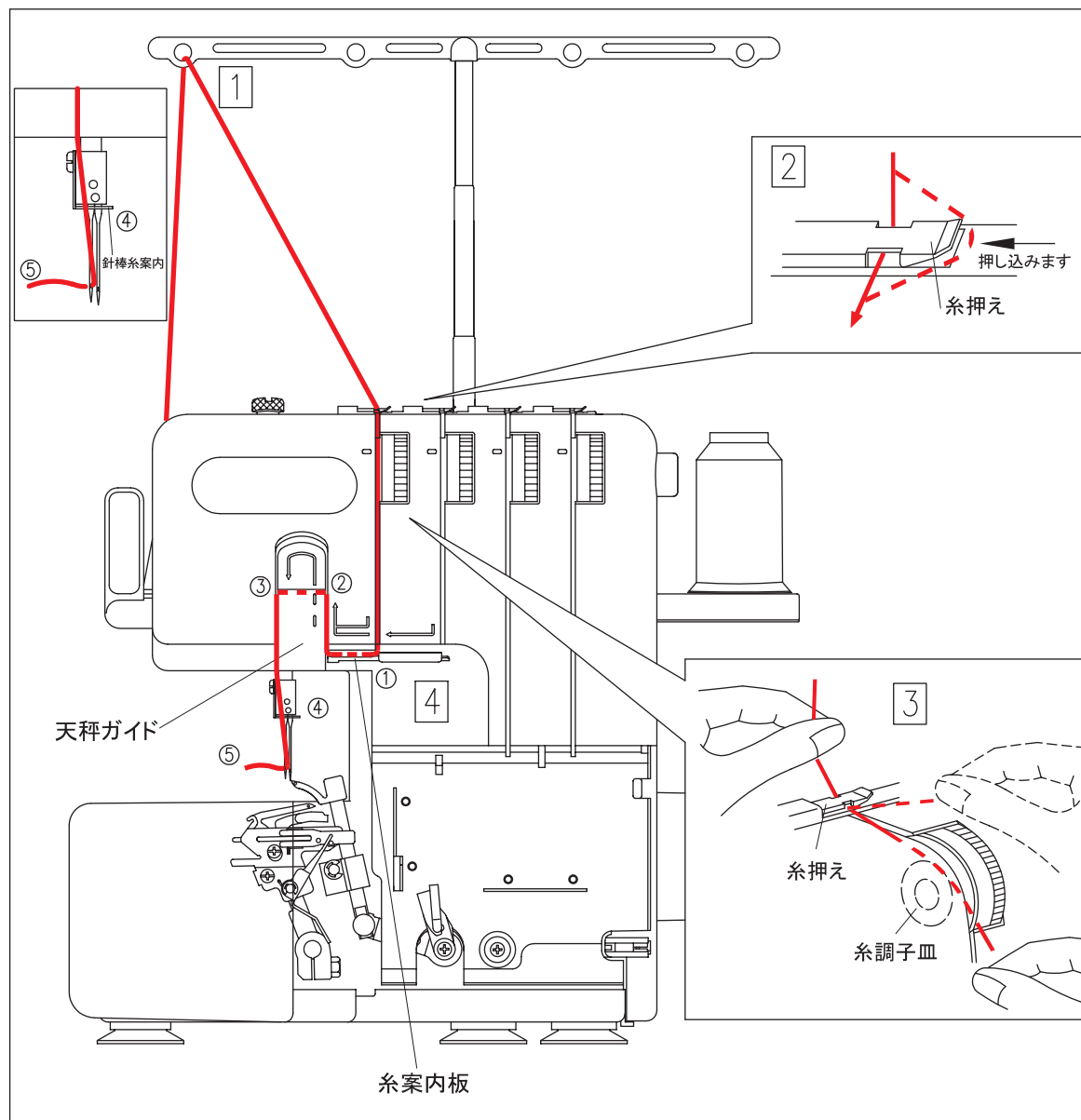




右針の糸のかけ方（赤）

1. 左から2つめの糸コマから糸を引き出して、糸コマの真上のアンテナの糸穴に糸を後ろから前に通します。(図①)
2. 左から2つめの糸押えに糸をかけます。(図②)
3. 糸の上下を手で持ち、赤の糸調子ダイヤルの糸溝(糸調子皿)に、しっかり押し込むように通します。(図③)
※糸調子皿は外からは見えません。
4. ①左右の糸案内板の下を右から左に糸をかけ
②天秤ガイドに右から左に糸をかけます。
③糸を下に引きおろし、④針棒糸案内に右奥から糸をかけます。
(図④)
5. 針が最上の位置にあるかを確認します。
最上でない場合には、ミシン右下のはずみ車を手前に回して、針を一番上の位置に合わせます。

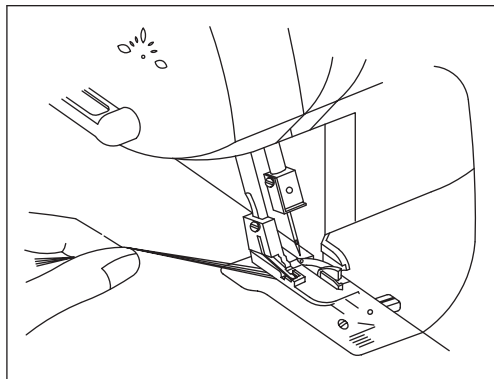
右針の針穴に、糸を前から後ろに通し、10cmほど後ろに引き出しておきます。



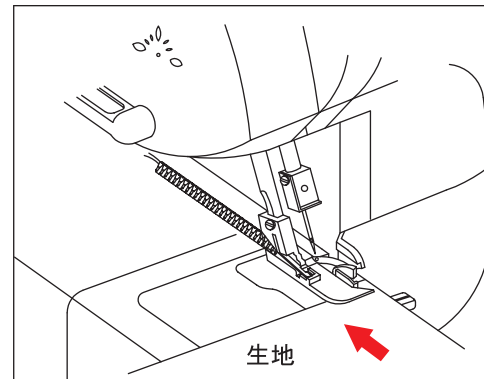
左針の糸のかけ方（黄）

1. 左端の糸コマから糸を引き出して、糸コマの真上のアンテナの糸穴に糸を後ろから前に通します。(図①)
2. 左端の糸押えに糸をかけます。(図②)
3. 糸の上下を手で持ち、黄色の糸調子ダイヤルの糸溝(糸調子皿)に、しっかり押し込むように通します。(図③)
※糸調子皿は外からは見えません。
4. ①左の糸案内板の下を右から左に糸をかけ、
②天秤ガイドに右から左に糸をかけます。
③糸を下に引きおろし、④針棒糸案内に右奥から糸をかけます。(図④)
5. 針が最上の位置にあるかを確認します。
最上でない場合には、ミシン右下のはずみ車を手前に回して、針を一番上の位置に合わせます。
左針の針穴に、糸を前から後ろに通し、10cmほど後ろに引き出しておきます。

■ 試しぬい

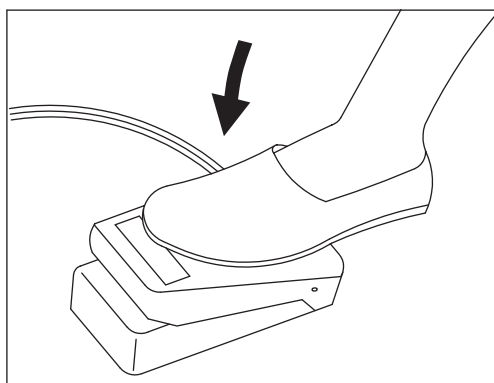


*フロントカバーを閉めます。
押え上げレバーを下げて、押えを下げます。針糸、上下のルーパー糸を押えの下に入れ、左手で糸の端を軽く後ろに引っ張りながら、右手ではずみ車を手前に回し、糸がチェーン状に繰り出されているかどうかを確認してください。

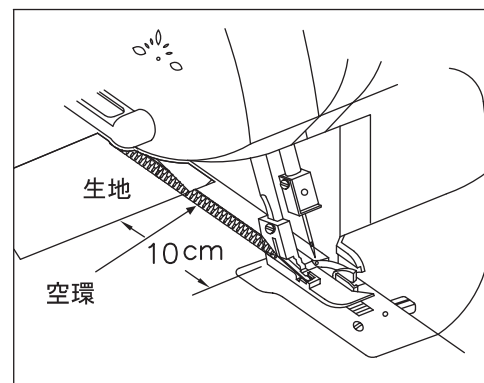


*始めはコントローラーを浅く踏み
ゆっくりとぬい始めます。
徐々に踏み込む量を大きくして
ぬい速度を上げます。

*布は自動的に送られますので、手は
布に軽くそえる程度にします。

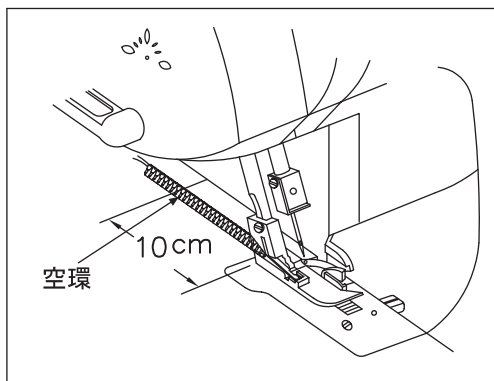


*糸がチェーン状に繰り出されることが
確認できたら、電源を入れ、コント
ローラーを踏みます。
※まだ布はのせません。



* 布の端までぬい終わっても、ミシンは
止めずにぬい速度を落としながら10cm
ほど空ぬいをし、空環を作ります。

* 空環は2~3cm残してハサミで切ります。
次にぬう時はそのままぬい始めます。



* ぬい目が10cmできるくらい、空ぬい
します。
これを「空環(からかん)」と言います。

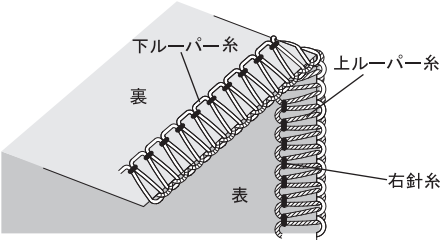
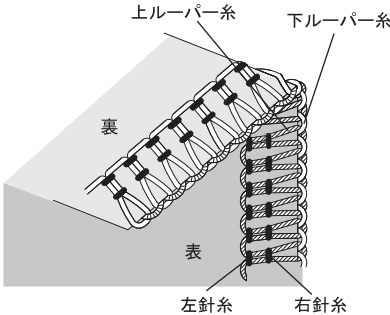
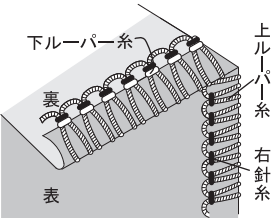
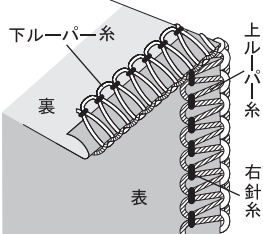
ワンポイント

【ぬっている途中で糸が切れた場合】

押えを上げ、一度布を取り外します。
上ルーパー糸、下ルーパー糸、針糸の順に糸をかけなおします。

押えを上げ、糸が切れた部分から3cmほど手前に針位置を合わせ、
布をセットし、押えを下げてからぬい始めます。

■ いろいろなぬい方とミシンのセット

		標準ぬい				巻きロック (変形巻きロック)	巻きロック (細ロック)
針と糸の数		1本針3本糸		2本針4本糸		1本針3本糸	
布		薄 地	厚 地	薄 地	厚 地	伸縮性の生地(厚地不可)	
ぬい目							
糸		#60～#90	#50～#60	#80～#90	#50～#60	#80～#90	#80～#90
針 (H A x 1)		#11～#14	#14	#11～#14	#14	#11～#14	#11～#14
送り目の長さ P2 ⑳		3		3		R (1)	R (1)
かがり幅 P2 ⑲		左針使用5 (右針使用3.5※注1)		5		R	R
巻きロック切替レバー P2 ⑰		N		N		R	R
差動比率 P2 ㉑		1.0		1.0		1.0	0.7
糸調子ダイヤル	針糸	2～3	3～4	3～4	4～5	4～5	4～6
	上ルーパー	3～4	4～5	3～4	3～4	2～3	4～6
	下ルーパー	3～4	4～5	3～4	3～4	5～7	4～6

注1: 1本針3本糸では通常右針を使用します。右針使用時に5に合わせると3.5mmになります。

* 表の数値は標準的な目安です。条件により設定を変える必要があります。

■ 普通ロックの糸調子の取り方

糸調子は、布地の種類や糸の太さ、種類によって異なります。
糸調子は、糸調子ダイヤルの数字を大きい方へ回すと強くなり、
逆に数字の小さい方へ回すと弱くなります。

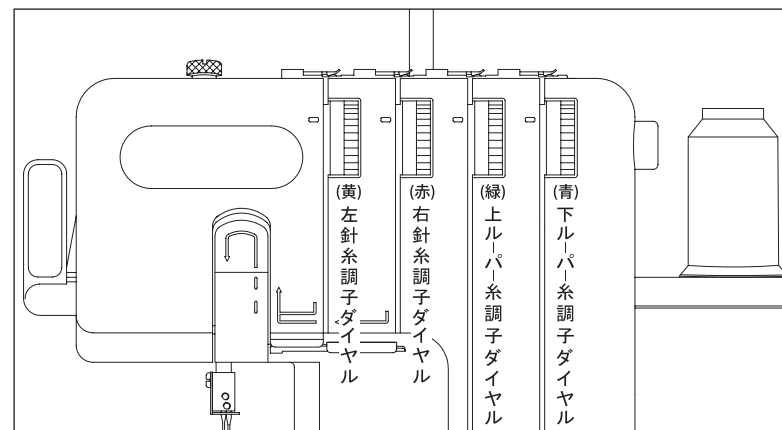
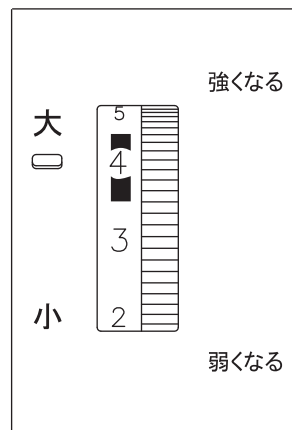
実際に使用される布地と糸を使って、ぬい目を見ながら、各糸調子
ダイヤルで調整してください。

(黄) 左針糸調子ダイヤル

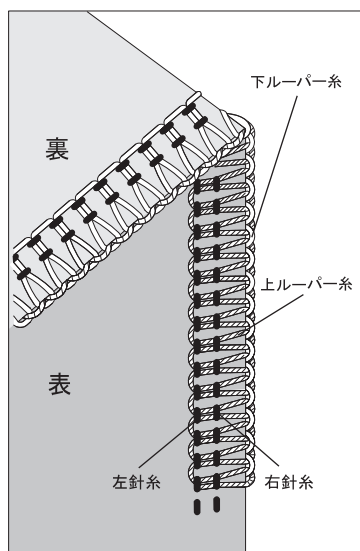
(赤) 右針糸調子ダイヤル

(緑) 上ルーパー糸調子ダイヤル

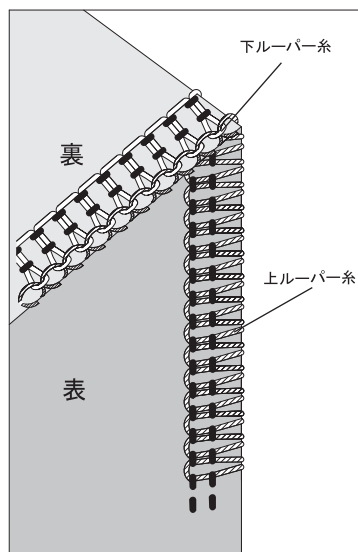
(青) 下ルーパー糸調子ダイヤル



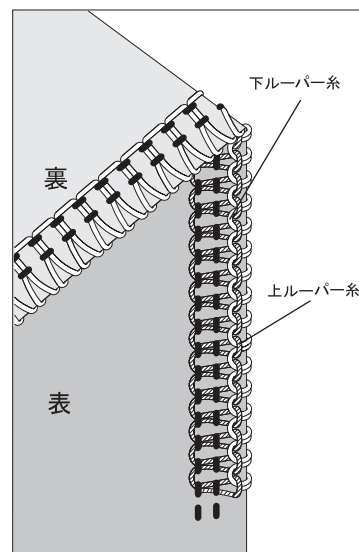
正しい糸調子



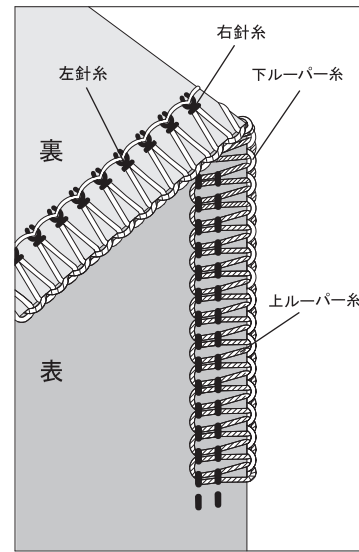
上ルーパー糸が裏側へ
巻き込まれる場合



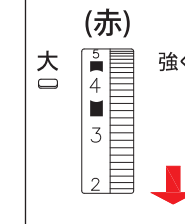
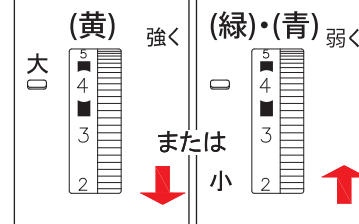
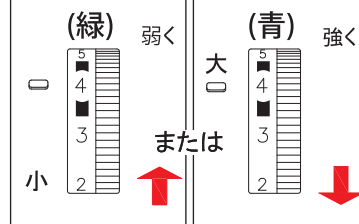
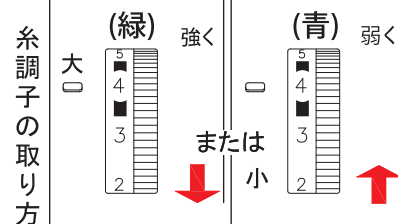
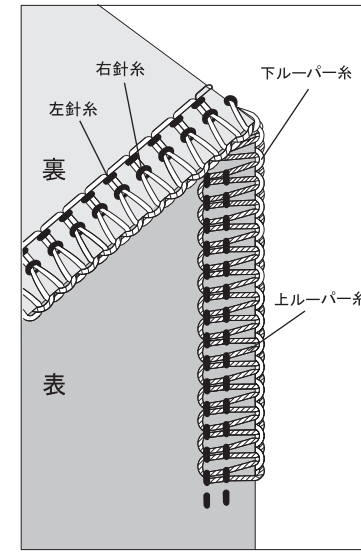
下ルーパー糸が表側へ
巻き込まれる場合



左針糸がゆるい



右針糸がゆるい

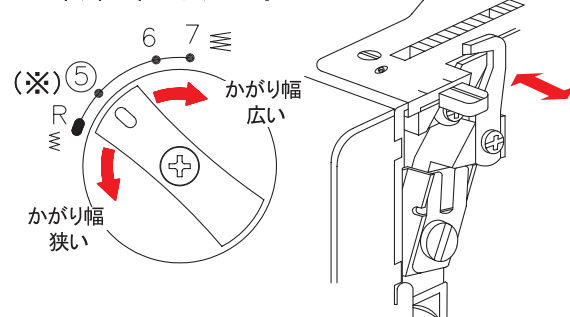


■ かがり幅調節ダイヤル

※メスの位置を動かしてかがり幅を調節します。

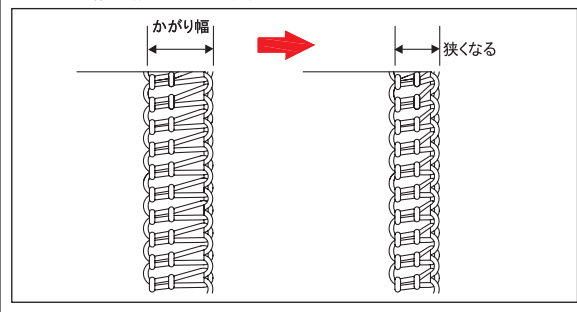
※時計回りに回すと、かがり幅が広くなり、
反時計回りに回すと、かがり幅が狭くなります。

注：2本針4本ロックの時



例)

標準：5 から、反時計回り（狭い）にダイヤルを回すと、かがり幅が狭くなります。



※R位置は、2本針4本系ロックの場合、
だいたい3.5mm幅になります。

※1本針3本系ロック（右針）でぬう場合、布幅の目安は
下記の数字になります。

7=5.5 6=4.5 5=3.5 R=2.5
(単位：mm)

■ 送り目調整ダイヤル

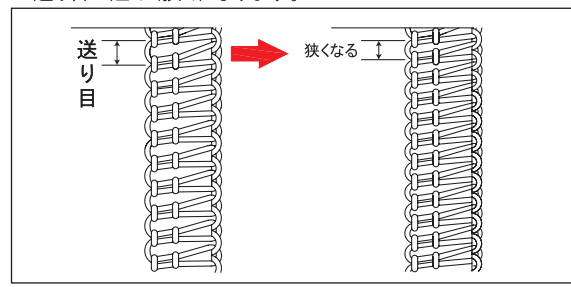
※布の送り目の長さを調節します。

※時計回りに回すと、送り目の長さが大きくなり、
反時計回りに回すと、送り目の長さが小さくなります。



例)

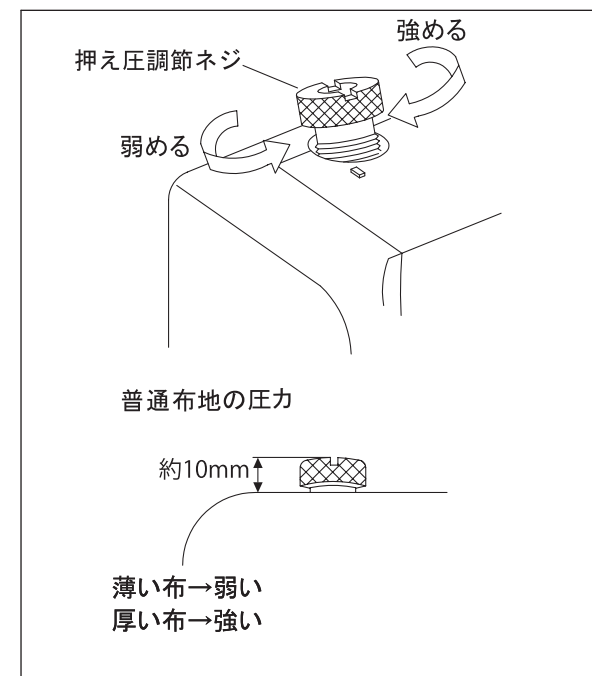
標準：3 から、反時計回り（短い）にダイヤルを回すと、送り目が短く（狭く）なります。



■ 押え圧調節ネジ

※布の種類や厚みによって、布を押さえる圧力を調節します。

※出荷時には一般的な布地に合わせて調節されており、
(ほとんどの場合は、調節の必要がありません)



※滑りやすい生地や厚い生地を何枚か重ねてぬう場合など、
押え圧力を調節した方がぬいやすい場合があります。

■ 差動送り

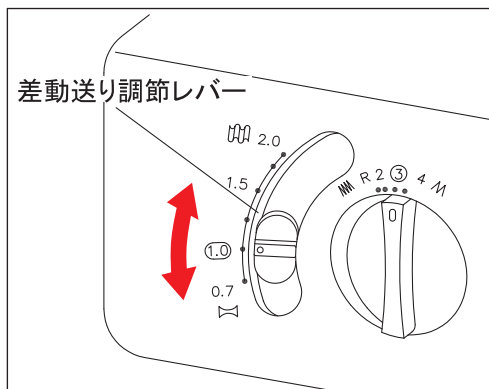
差動送り調節レバー

下記の図を参照し、差動送り調節レバーを動かして調節します。

0.7から2.0の範囲で調節できます。

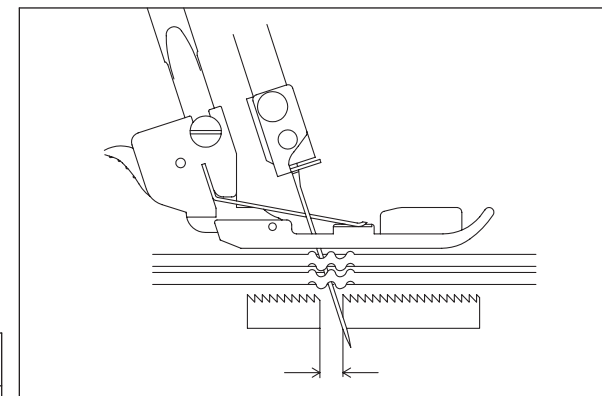
この範囲で最良の送り量が選べます。

※差動送りを使用しないときは「1.0」にセットしておきます。



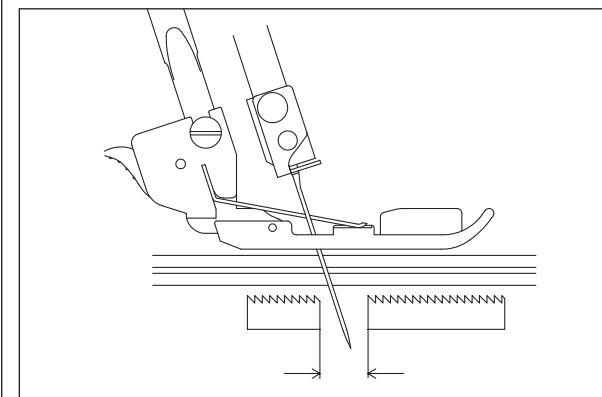
ぬい伸びしやすい布地の場合

差動送り調節レバーを「2.0」の方に動かすと、前送り歯が後ろ送り歯より多く運動するので、布地の波打ちが防げます。



ぬい縮みしやすい布地の場合

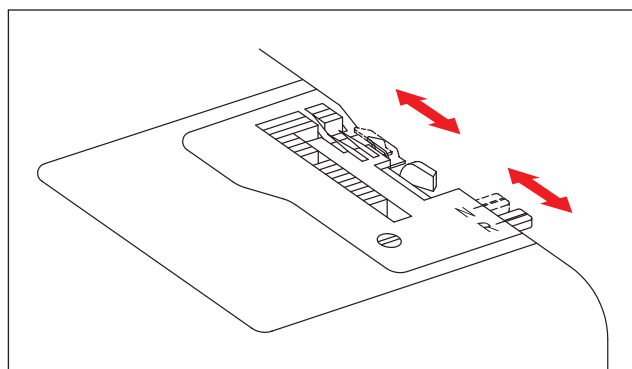
レバーを「0.7」の方に動かすと、前送り歯の動きが後ろ送り歯より少ないので、ぬいじわが防げます。



	伸びやすい生地		縮みやすい生地
生地	ニット地、ジャージ、メリヤス、 その他バイヤス部分等	織布	ジョーゼット、サテン、 リネン、ローン等
セット位置	1.0 — 2.0	1.0	0.7 — 1.0
差動送り使用前後のぬい目			

■ 巻きロック切替レバー

- * 布端を巻き込む巻きロックを行うときに使用します。
通常ぬいのときはNの位置に、巻きロックのときにはRの位置にします。

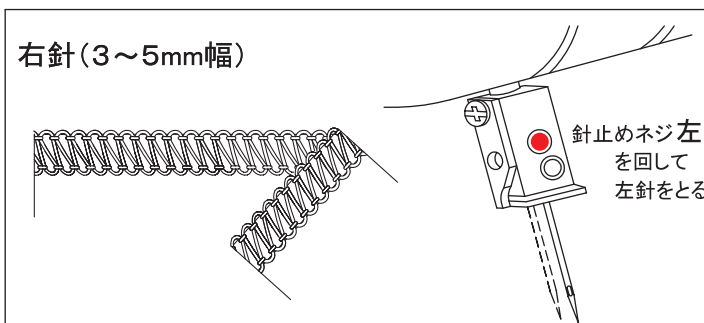


■ 3本糸で縁かがりぬいをする

- * 3本糸で縁かがりぬいを行う場合、通常右針を使います。
※右は布端から針までの距離が左より近いため、糸調子が安定します。

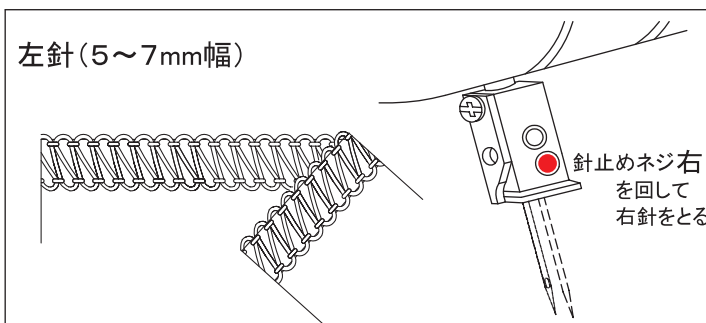
■ 右針(3～5mm幅)縁かがりの場合

1. 左針を取り外します。
2. 上ルーパー、下ルーパー糸かけは、標準ぬい(2本針4本糸)と同じです。

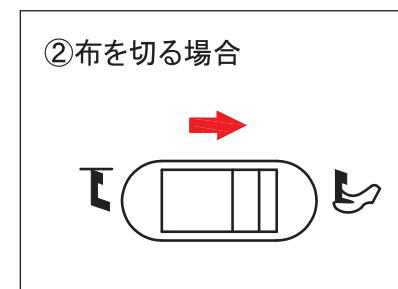
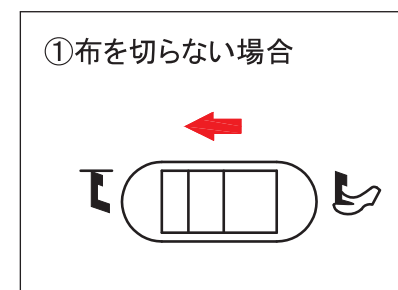


■ 左針(5～7mm幅)縁かがりの場合

1. 右針を取り外します。
2. 上ルーパー、下ルーパー糸かけは、標準ぬい(2本針4本糸)と同じです。



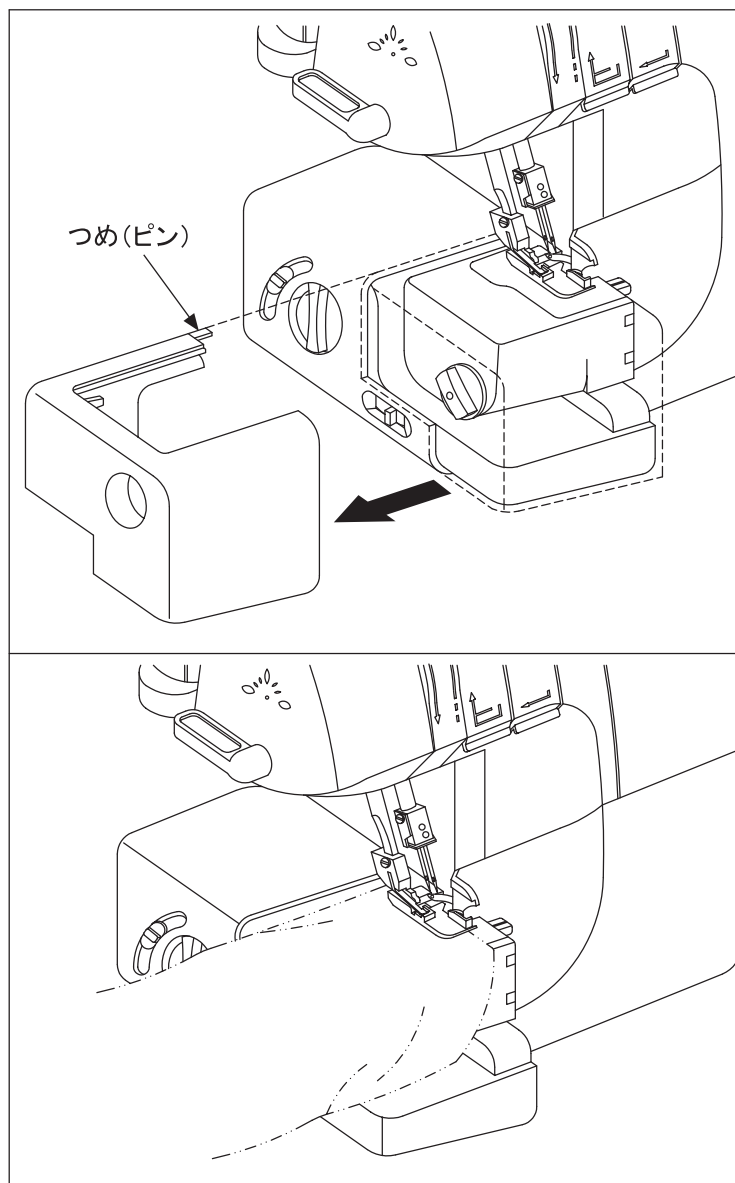
■ 上メス解放レバー



- * 布端を切る必要がない場合に、上メスを動かないようにします。

- ① 布を切らない場合
はずみ車を回し、針の位置を一番下に合わせます。
①図の方向にレバーをスライドさせて、上メスをロックします。
- ② 布を切る場合
はずみ車を回し、針の位置を一番下に合わせます。
②図の方向にレバーをスライドさせて、上メスのロックを外します。

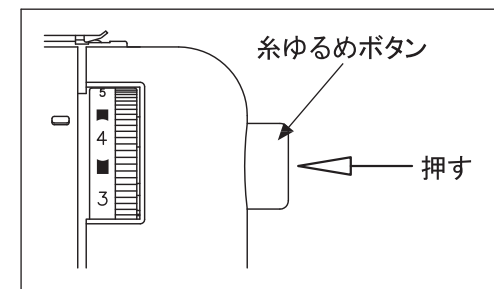
■ フリーアーム



※補助テーブルを左の方向に
ひっぱるような感じで引き抜いて
ください。
筒ぬいに便利なフリーアームに
なります。

※補助テーブルを取り付ける時には、
図のつめ(ピン)部分がきちんと
本体にかみ合う様にし、右に押し
込むように、取り付けてください。

■ 糸ゆるめボタンを使う

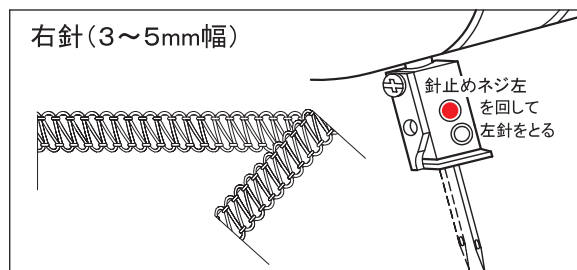


* 糸を引き出したり、交換したりする際には、
必ず糸ゆるめボタンを押しながら、糸を
引くようにしてください。
ボタンを押す事で、糸調子が解放され、
糸がスムーズに引き出せます。

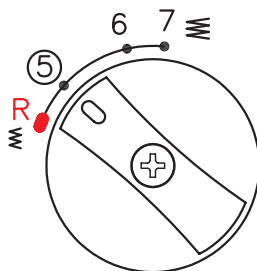
■ 巻きロックでのぬい方

巻きロックは、通常右針1本の1本針3本糸でぬいます。

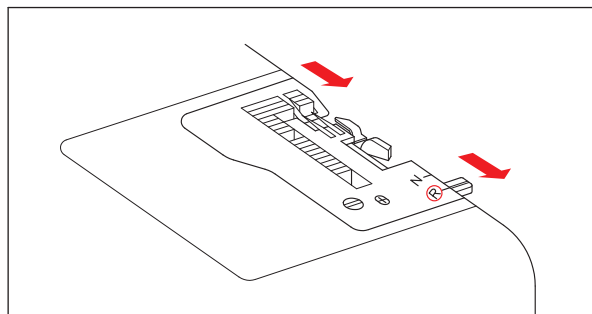
1. 左針の止めネジをゆるめて針を取り、止めネジは落ちない様に締め直します。(7ページをご覧ください)



2. かがり幅調節ダイヤルをRに切り替えます。

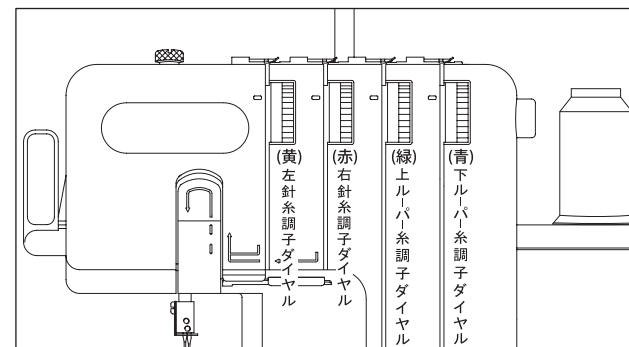
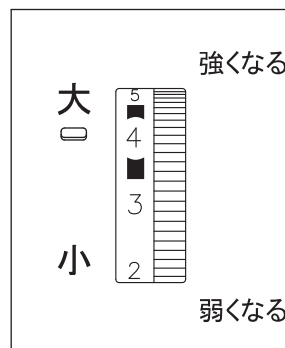


3. 針板にある巻きロック切替レバーをRの位置に切り替えます。(かがり爪が手前に隠れます。)



※巻きロックでの使用後は、必ずNの位置にレバーを戻して、かがり爪の位置を戻してください。(通常ぬいはN)

■ 巻きロックの糸調子



(黄)左針糸調子ダイヤル
(赤)右針糸調子ダイヤル
(緑)上ルーパー糸調子ダイヤル
(青)下ルーパー糸調子ダイヤル

【変形巻きロック】の

バランスの取れた美しい目

※通常「巻きロック」といえばこの

「変形巻きロック」を指します。

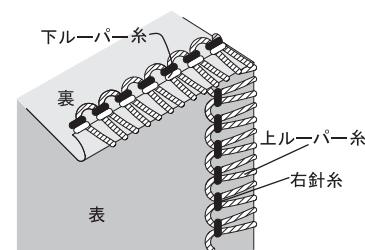
「変形巻きロック」は下ルーパーの糸調子の数値を普通ロックの時よりも2~3強めてください。

※仕上がり幅は約1.5mmです。

ワンポイント【推奨する糸】

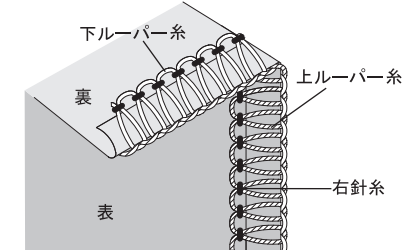
針糸・下ルーパー糸：#90

上ルーパー糸：ウーリー糸



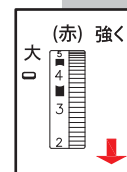
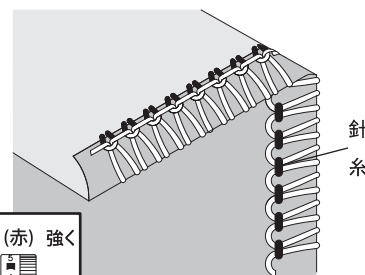
上ルーパー糸が、布端を裏側に巻き込みながら細かがります。既製品に多く使われているぬい目です。薄物の縁かがりやハンカチ、コサージュやフリルにも。

【細ロック】のバランスの取れた美しい目

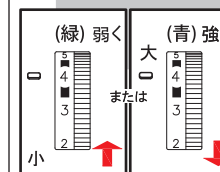
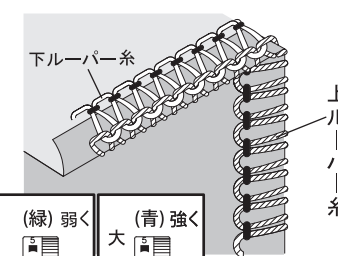


布端をひと折りしなから、細かがりますが、ぬい目の形状は普通ロックと同じです。かがりの厚みを出さず、きれいなシルエットに仕上げることができます。※仕上がり幅は約1.5mmです。

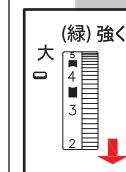
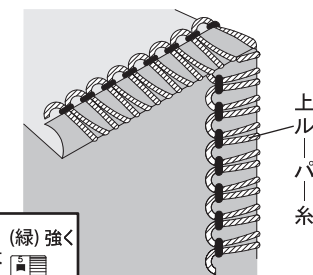
針糸が弱い場合



上ルーパー糸が強すぎる、または下ルーパーが弱すぎる場合

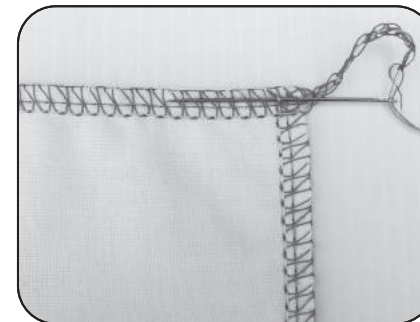
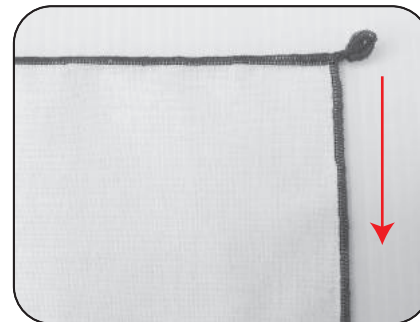
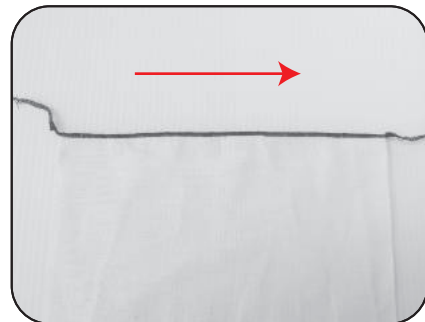
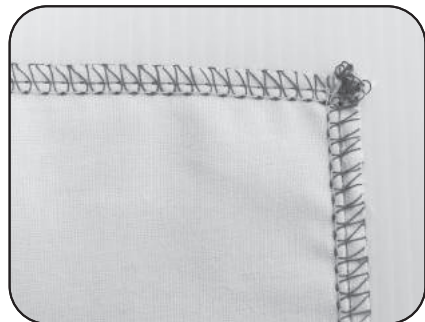


上ルーパー糸が弱すぎる場合



■ 基本的なテクニック

外角のぬい方 四角いパーツのはし始末などに

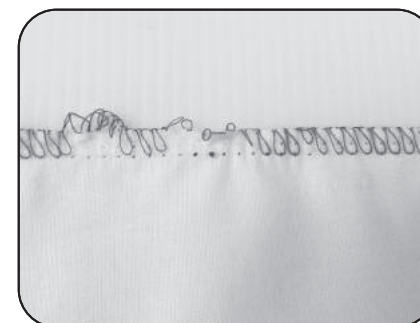
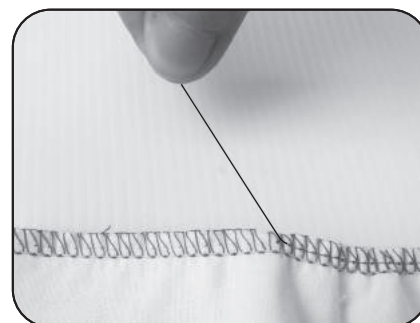
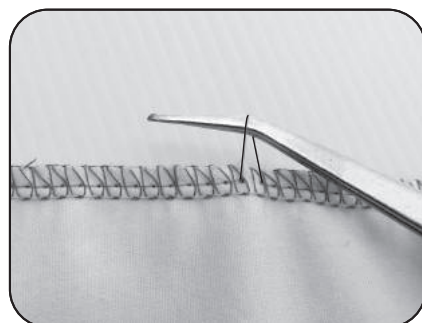
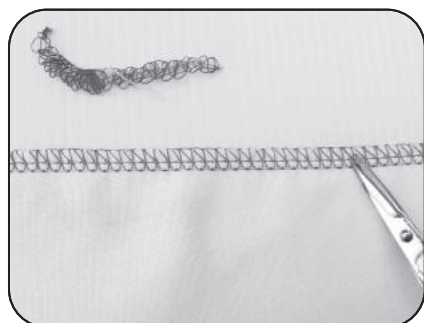


1 まず一辺をぬい切ります。

2 布を90度回転させて、次の変を新たにぬいます。

3 残った空環を、布の裏側でぬい目にくぐらせて始末します。とじ針や刺しゅう針を使うと便利です。

ぬい目のほどき方



1 まず空環をカットします。次に針糸をすくってはさみを入れ、カットします。

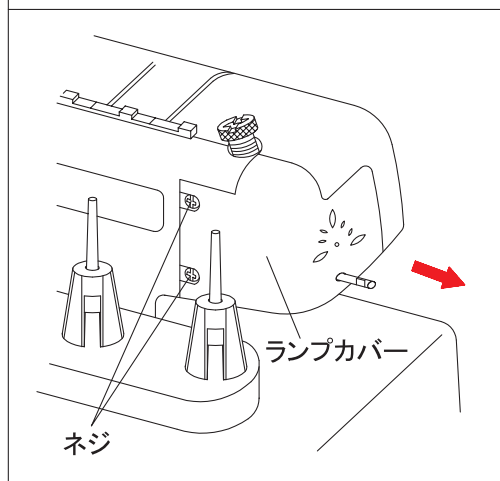
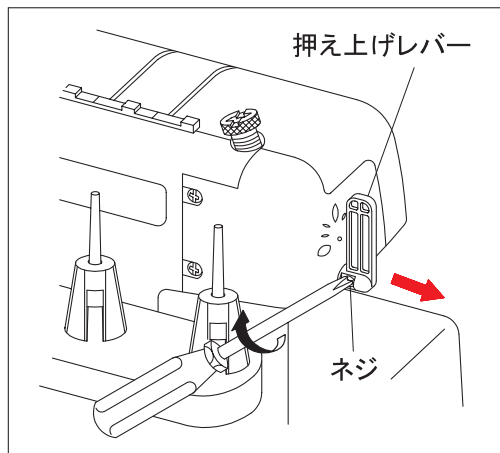
※範囲が広いときは10cmおきにカットします。

2 ピンセットなどで針糸を出します。

3 引き出した針糸を引っ張って、抜き取ります。

4 針糸が抜けると、ルーパー糸は簡単にほどけて外れます。

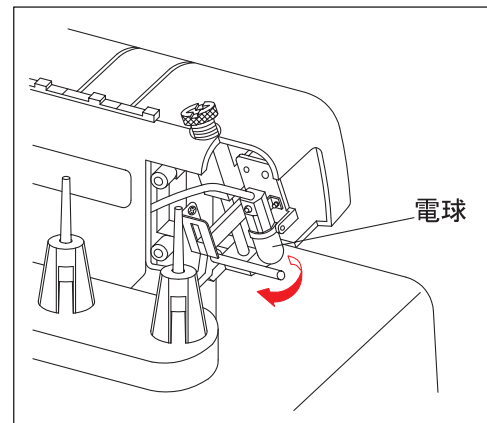
■ 3. ミシンの手入れ



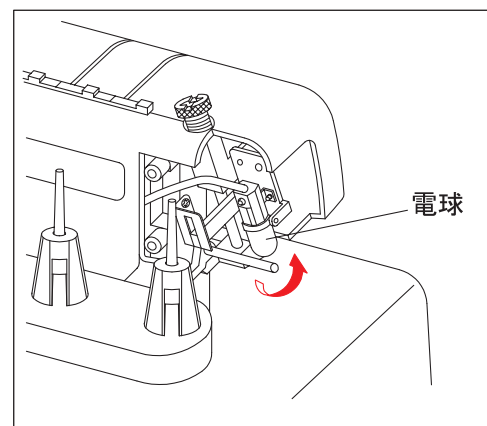
電球の取りかえ方

1. 電源スイッチを切ってください。
2. 押え上げレバーを上げ、市販のプラスドライバーを使い、裏側にある取り付けネジを外し、レバーを取り外します。

3. ランプカバーの穴の奥にある取り付けネジを外し、カバーを図の矢印方向に取り外してください。

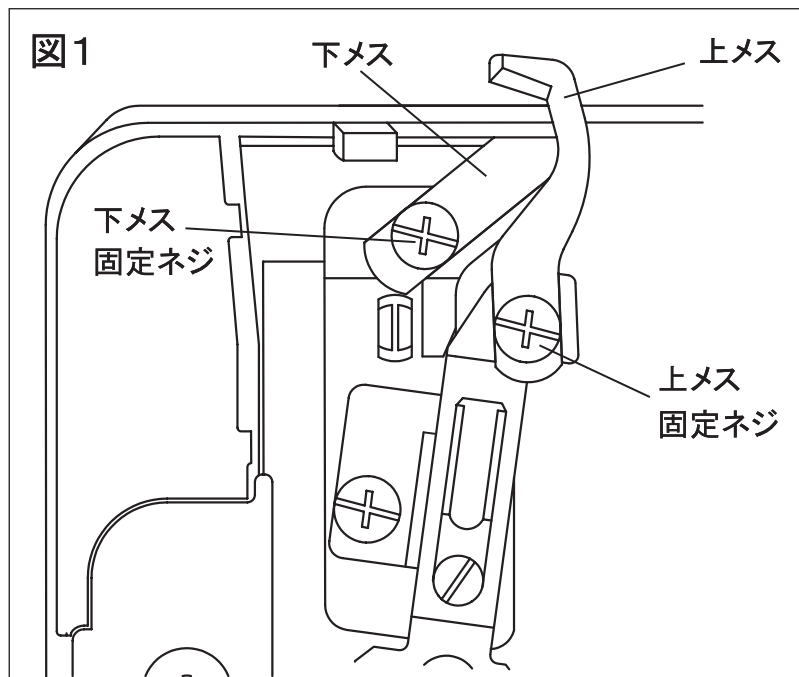


4. 電球を図の矢印の方向に回して取り外します。



5. 新しい電球を図の矢印方向に回し取り付けます。

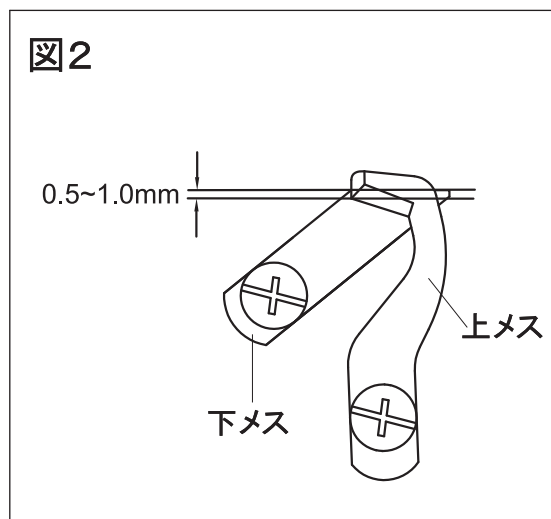
※電球はLED電球をご使用ください。ミシン販売店、または家電店でお買い求めください。



メスの取りかえ方

メスは消耗品です。メスが切れなくなった場合は、通常「上メス」を交換してください。

1. 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
2. 押えを取り外します。
3. フロントカバーを開け、はずみ車を回し、上メスを一番低い位置に合わせます。
4. 市販品のプラスドライバーを使い、上メス固定ネジを外して、上メスを取り外します。
5. 新しいメスを図1と同じ方向に取り付け、ネジを軽くしめて仮止めします。



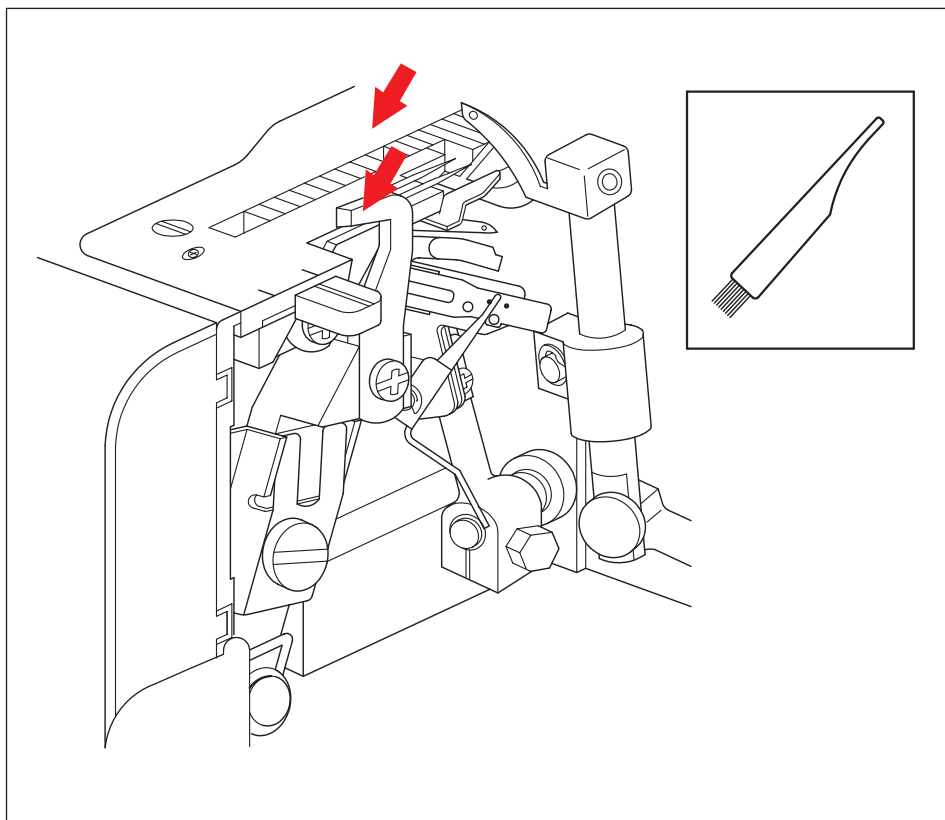
6. 図2のように、下メスに対して、上メスの刃先が 0.5～1.0 mm程度沈み込んだ位置に上メスを上下させ調整し、上メスの固定ネジをしっかりと止めます。

※ かがり幅調整ダイヤルの目盛を最少位置にしておくと、取り付け作業が容易に行えます。

※ 交換用の上メス、下メスについては、ミシン販売店にてお買い求めください。

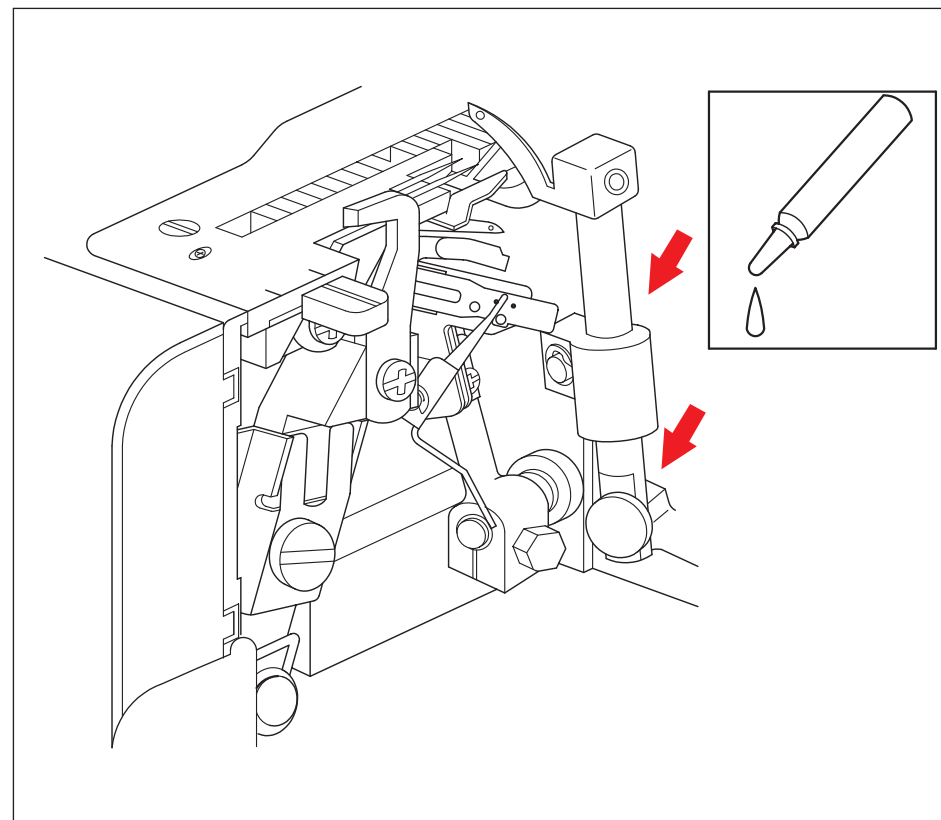
掃 除

* ミシンを長持ちさせるためにも、使用後に図の上下メス部分や、送り歯付近に溜まった糸屑やホコリなどを付属のブラシで掃除してください。



注 油

* 使用延べ時間10時間毎に、図の場所に付属のミシン油を注油してください。
* ミシン用油以外は使用しないでください。



■ 故障かな？と思ったら……

問題点	原因	対策	参照ページ
ミシンが動かない	・フロントカバーがきちんと閉まっていない	説明書にしたがって、フロントカバーを隙間なく閉めてください	4
	・電源スイッチを入れていない	ミシン右面にある、電源スイッチを入れてください	4
全くぬえない	・押えを下げてない	押え上げレバーを下げ、押えを降ろしてください	6
糸が切れる	・糸が古くなっている可能性がある ・糸のかけ方が間違っている ・針の取り付け方が間違っている ・使用している針が曲がったり針先が摩耗している ・糸案内付近で糸がからんでいる ・糸の調子が強すぎる	新しい糸に交換してください	8～12
		正しい位置に正しい方向で針を取り付けてください	7
		新しい針に交換してください	7
		正しく糸をかけなおしてください 各糸の糸調子を調節してください	8～12 15, 20
針が折れる	・使用している針が曲がったり、針先が摩耗している ・針の取り付け方が間違っている ・布を無理にひっぱっている	新しい針に交換してください	7
		正しい位置に正しい方向で針を取り付けてください	7
		布には軽く手を添える程度にしてください	13
目とびする	・布にあった針を使っていない ・針の取り付け方が間違っている ・糸が古くなっている可能性がある ・糸のかけ方が間違っている ・送りの長さが正しくない ・糸調子が強すぎる	布にあった針に交換してください	14
		正しい位置に正しい方向で針を取り付けてください	7
		新しい糸に交換して下さい	8～12
		正しく糸をかけなおしてください 送りの長さを調節してください 各糸の糸調子を調節してください	14, 16 15, 20
メスが布を切らない	・上メス解放レバーで切らない方を選択している ・上メスが摩耗している	上メス解放レバーを布端を切る方にセットする	18
		上メスを取りかえる	23

■ 故障かな？と思ったら……

問題点	原因	対策	参照ページ
普通ロックがうまくぬえない	・糸のかけ方が間違っている ・糸調子皿から糸が外れている ・糸がからんでいる ・糸が古くなっている可能性がある ・使用している針が曲がったり針先が摩耗している ・送りの長さが正しくない ・糸調子があっていない ・かがり幅が適切でない ・差動送りの設定が適切でない	正しく糸をかけなおしてください 正しく糸をかけなおしてください 糸のからみを取り、正しくかけなおしてください 新しい糸に交換してください 新しい針に交換してください 送りの長さを調節してください 各糸の糸調子を調節してください 適当なかがり幅に調節してください 差動送り量を調節してください	8～12 8～12 8～12 7 14, 16 14, 15 16 17
巻きロックがうまくぬえない	・かがり幅調節ダイヤルが「R」になっていない ・巻きロック切替レバーが「R」になっていない ・糸が古くなっている可能性がある ・使用している針が曲がったり針先が摩耗している ・糸調子があっていない ・糸のかけ方が間違っている ・送りの長さが正しくない ・差動送りの設定が適切でない ・糸がからんでいる	かがり幅調節ダイヤルを「R」にセットしてください 巻きロック切替レバーを「R」にセットしてください 新しい糸に交換してください 新しい針に交換してください 各糸の糸調子を調節してください 正しく糸をかけなおしてください 送りの長さを調節してください 差動送り量を調節してください 糸のからみを取り、正しくかけなおしてください	20 20 7 20 8～12 14, 16 17 8～12
普通ロックで布の切れはしが巻き込まれる	・上メスが摩耗している ・巻きロック切替レバーが「N」になっていない ・布端が細すぎる	上メスを取りかえる 巻きロック切替レバーを「N」にセットしてください 正しく糸をかけなおしてください 少し多めにぬい幅を取る	23 20 8～12

■ ミシンの仕様

ぬいスピード	最高速度 1,300針/分
ぬい目長さ	1.0mm～4.0mm
差動送り比率	0.7～2.0
かがり幅	1.5mm～7.0mm
針	Hx1 #11～#14(付属品は#12と#14)
押え上昇量	5.0mm～6.0mm
ミシン本体サイズ(幅×奥行×高さ)	345mm×280mm×315mm(アンテナ含まず)
ミシン本体重量	6.6Kg
定 格	AC100V 50/60Hz
消費電力	105W

* 各数値は設計値です。

■ 修理サービス要領

● 修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から3年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

● 修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

● 無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 二. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ. 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
4. このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

■ お問い合わせまたはご相談先（純正部品の購入方法）

シンガーミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の「お客様相談係」でも承っておりますので、ご遠慮なくお申し付けください。

- * 住所および電話番号は、都合により変更することがありますので、ご了承ください。
- * シンガー純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、下記の「お客様相談係」におたずねください。

160年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭にお届けいたしております。

株式会社 ハッピージャパン

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号
電話 03-3837-1865

（本社）〒990-2251 山形県山形市立谷川3丁目3515